

トンボ目トンボ科

オオキトンボ

Sympetrum uniforme

宮城県
絶滅(EX)

環境省
絶滅危惧ⅠB類(EN)



(撮影：牧野 周、所蔵：山元町歴史民俗資料館、産地：化女沼)

全長5cm程度のやや大型の黄褐色のアカトンボで、8月下旬から11月上旬にかけて見られました。東北地方から九州にかけて平地から丘陵地の遠浅の池沼に生息していますが、全国的に減少が著しい種です。北限の青森県では現存しています。

県内では伊豆沼、内沼、化女沼で記録がありますが、1977年の化女沼の記録が最後となっています。平野部の湖沼が生息地であるため、農薬の流入や農業排水の富栄養化が要因と考えられます。

写真の標本は県内最後の個体です。

(執筆：牧野 周)

ゴキブリ目オオゴキブリ科

オオゴキブリ

Panesthia angustipennis spadica

宮城県
絶滅危惧Ⅱ類(VU)

環境省
—



(撮影：紺野 広昭)

体は黒褐色で厚みがあり、体長4cm前後になるゴキブリの仲間です。樹林に生息し、主に朽ち木を食べて過ごしているため、時々家の中に入ってくる他のゴキブリ類のように、市街地で見かける機会はほとんどありません。

暖地性で、大径木を伴った自然度の高い環境に生息しますが、そのような場所は、宮城県では社寺などに僅かに残っている程度であるため、好適な環境は限られます。宮城県では石巻市金華山をはじめ、大和町、仙台市、角田町から発見されています。

(執筆：紺野 広昭)

トンボ目トンボ科

ハッチョウトンボ

Nannophya pygmaea

宮城県
絶滅危惧Ⅱ類(VU)

環境省
—



(撮影：牧野 周、撮影地：加美町)

全長2cmにも満たない日本最小でかつ、世界でも稀にみる小さなトンボです。雄は赤色で、雌は黄色と褐色の縞模様を有します。6月中旬から8月に見られます。

県内では、10以上の旧市町村で記録されていましたが、現在、安定した産地は気仙沼と加美町の山沿いの泥炭湿地に限定されています。水量豊富な湿地に生息し、休耕田にもしばしば見られますが、乾燥化が進むといち早く消滅します。公共事業等の土地開発によって消滅した産地も多くあります。

(執筆：牧野 周)

バッタ目バッタ科

ニンポーチナゴ

Oxya ninpoensis

宮城県
情報不足(DD)

環境省
—



(撮影：紺野 広昭、所蔵：農研機構)

田んぼやその周辺で普通に見られるコバネイナゴやハネナガイナゴと外見はそっくりですが、体長はより大型になること、後脚の腿節が長いこと、雄では腹部先端にある尾肢先端の棘が二股に分かれ、雌では腹部末端の基弁内側の突起がないことなどから区別されるほか、発生時期もより早いとされています。

日本では青森県・宮城県・新潟県で発見されていますが、宮城県では1970年代の記録があるだけです。自然度の高い平地の池沼湿地に生息し、かつては田んぼにもいたと言われていましたが、発見されなくなった原因は分かっています。

(執筆：紺野 広昭)

バッタ目バッタ科

カワラバッタ

Eusphingonotus japonicus

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 —
-----------------------	----------



(撮影：五十嵐 由里、撮影地：岩手県)

体長25～43mmになり、体の色は河原の石にそっくりです。後翅は中ほどより内側が青色です。生息地は川の中流域の氾濫原で、石が多く、植物が少ない場所を好みます。

宮城県では大崎市鳴子町、仙台市、七ヶ宿町で発見されていますが、1998年以降再発見されず、絶滅が心配されます。

川の上流に作られたダムにより氾濫が抑えられることで、河原が安定化し草が増えると、ほかのバッタ類との競合が起こり、生息数が減ってしまうおそれがあるほか、河川改修工事などによる環境の改変は、生息地の減少の要因となります。

(執筆：紺野 広昭)

アミメカゲロウ目ウスバカゲロウ科

オオウスバカゲロウ

Heoclisia japonica

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 —
-----------------------	----------



(撮影：五十嵐 由里)

成虫は体長4cm前後、翅を広げたら幅が10cmにもなる大型のウスバカゲロウです。幼虫の大きさは2cmほどでアリジゴク型をしていますが、アリジゴクでよく知られるすり鉢状の巣は作らず、砂に潜って餌となる他の昆虫などを待ち伏せします。

宮城県では沿岸地域の砂浜に生息していますが、内陸部の涌谷町や大崎市鳴子町でも発見例があります。2011年3月の大津波によって、成虫が休息する海岸林が破壊されたことや、防潮堤工事による環境の改変のほか、波の浸食による砂浜面積の減少で、生息がおびやかされています。

(執筆：紺野 広昭)

カメムシ目コオイムシ科

タガメ

Lethocerus deyrollei

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
-----------------------	--------------------



(撮影：細見 周平)

体長6cm前後になる大型の水生昆虫です。肉食性で、鎌のような前脚でカエルや小魚を捕らえます。水生植物が豊富で水質の良い環境を好み、田んぼやため池、流れの緩やかな水路に見られます。メスは初夏、水面から突き出した植物などに産卵し、卵が孵化するまではオスが世話をします。

宮城県では北部地域での発見例が多いですが、生息地であるため池や水路が、工事によって環境が変わったことで姿を消した産地があるほか、マニアによる乱獲が問題になったことがあります。

(執筆：紺野 広昭)

アミメカゲロウ目ツノトンボ科

キバネツノトンボ

Ascalaphus ramburi

宮城県 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	環境省 —
--------------------	----------



(撮影：紺野 広昭)

蝶のような体と触角に、トンボのような細長い翅を持った昆虫です。体長23mm前後になり、頭と胸の一部が黄色で、他は黒色で毛に覆われています。翅は黄色と褐色の斑模様をしています。

河川敷の氾濫原、農耕地に隣接する草地など、明るく開けた草原環境に生息していますが、そうした場所は工事などの開発を受けやすいことから、生息地の減少が懸念されます。また、生息環境が遷移によって草の密度が高まったり、背丈の高い植物に覆われたりすると、姿を消してしまいます。

(執筆：紺野 広昭)

コウチュウ目ゲンゴロウ科

ゲンゴロウ

Cybister chinensis

宮城県 準絶滅危惧 (NT)	環境省 絶滅危惧II類 (VU)
-------------------	---------------------



(撮影：紺野 広昭)

(執筆：五十嵐 由里)

北海道から九州に分布し、自然の池やため池、水田などに生息しますが、全国的に産地と個体数が激減しています。蛹の時期や越冬時は土中で過ごすため、土の岸辺が必要です。体長は40mmを超えることもある、日本産ゲンゴロウ類では最大の種。

県内では奥羽山系から沿岸市町村まで各地に記録がありますが、現在平地で見るとはほとんどありません。人里近くの生息環境は、ため池の放棄、護岸工事、圃場整備や乾田化で失われ、水質の悪化や外来魚、コイ、アメリカザリガニ、ウシガエルなどの捕食圧で、質的にも悪化する一方です。

コウチュウ目ハンミョウ科

カワラハンミョウ

Chaetodera laetescripta laetescripta

宮城県 絶滅危惧I類 (CR+EN)	環境省 絶滅危惧I B類 (EN)
-----------------------	----------------------



(撮影：五十嵐 由里)

(執筆：五十嵐 由里)

北海道から九州に分布しますが、砂浜の衰退を主な原因として急激に生息地が失われています。

現在県内では東松島市と仙台市以南の太平洋岸で確認されていて、古くは内陸の旧色麻町、震災前には旧河北町、旧石巻市にも記録があります。体長14~17mm。奥行きのある広い砂浜に生息し、幼虫は植生の周囲などに穴を掘って潜み、通りかかる小さな生き物を捕食します。

震災後は砂浜の環境が広がって生息数が回復しましたが、防潮堤建設や海岸林造成などによる生息地の分断や消失が影響して、これからは次第に衰退していくと考えられます。

コウチュウ目ゲンゴロウ科

オオイチモンジシマゲンゴロウ

Hydaticus pacificus conspersus

宮城県 絶滅危惧II類 (VU)	環境省 絶滅危惧I B類 (EN)
---------------------	----------------------



(撮影：紺野 広昭)

(執筆：五十嵐 由里)

本州の近畿以北に分布していますが、個体数は少なく、生息域は全国的にきわめて限られます。

県内では旧石巻市、松島町、利府町、加美町、大郷町、若林区、名取市、柴田町、大河原町、亶理町、山元町、丸森町に記録があり、平地から低山にかけての、湧水のある水田、林の中の細流や池などに生息しています。体長16~17mmの美しい種です。

人里近くに生息するため、生息環境は人のさまざまな活動の影響を受けます。開発による生息環境の破壊、山林の伐採や管理放棄による乾燥化、湧水の減少、水質の悪化、水田の乾田化、農業汚染などが生息を脅かします。

コウチュウ目ハンミョウ科

ナミハンミョウ

Sophiodela japonica

宮城県 準絶滅危惧 (NT)	環境省 —
-------------------	----------



(撮影：紺野 広昭)

(執筆：五十嵐 由里)

本州、四国、九州、屋久島などに分布し、植生のない、土がむき出しになった場所(裸地)に生息します。体長18~20mm。

かつて県内では都市近郊の墓地や林道、農道、耕作地周辺などで普通に見られる身近な種でしたが、このような裸地はほとんどが舗装されたり、砂利に覆われたりして、生息に適した場所が少なくなりました。

近年では気候の変化で植物が茂りやすいことも衰退の要因になると考えられます。多産地として知られていた仙台市竜ノ口では、イノシシが土中に住む幼虫を捕食したと思われる痕跡が確認されました。

コウチュウ目オサムシ科

マークオサムシ

Carabus maacki aquatilis

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
-----------------------	--------------------



(撮影：阿部 剛)

本州北部に分布し、低地から丘陵地の湿地や水田周辺、湖沼の周囲、湿った河川敷など水辺に生息します。体長25～32mm。宅地やゴルフ場などの開発、農地の整備によって、生息環境が急速に失われています。

県内では松島丘陵に属する地域を中心に記録がありますが、旧岩出山町で2009年に採集されて以来、報告がありません。かつての多産地古川市化女沼では、ダム建設と護岸により絶滅しました。半水棲といわれるほど水との結びつきが強いため、周辺開発が乾燥化を招くなどの間接的な影響も生息を脅かします。

(執筆：五十嵐 由里)

コウチュウ目クワガタムシ科

オオクワガタ

Dorcus hopei binodulosus

宮城県 準絶滅危惧 (NT)	環境省 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
-------------------	--------------------



(撮影：吉田 馨)

国内では北海道、本州、四国、九州、対馬に分布し、原生林に生息するほか、雑木林のクヌギの台木などで発生することがあります。大きな個体では体長80mmを超えます。

県内では旧鳴子町、旧花山村、蔵王町で記録されています。一般に宮城県では雑木林を更新する際に台木を作らないため、里山的環境からは知られていません。産地は奥羽山系のブナ帯に限られ、個体数もごく少数です。山林の伐採や開発、特に古木の伐採が直接の脅威となります。また遺伝子の攪乱を防ぐため、飼育個体を放虫しないよう注意が必要です。

(執筆：五十嵐 由里)

コウチュウ目オサムシ科

ギョウトクコミズギワゴミムシ

Tachys gyotokuensis gyotokuensis

宮城県 情報不足 (DD)	環境省 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
------------------	--------------------



(撮影：紺野 広昭)

本州、四国、九州に局所的に分布。潮間帯のヨシ原周辺に生息する体長2mm前後の小さなゴミムシです。

県内では1981年に名取川の河口で発見されてから、2019年に再発見されるまで長い間追加の記録がなく、他の場所でも見つかっていません。

この種が生息する河口付近の環境は変化しやすく、震災をはじめとする自然条件に大きな影響を受けます。また河川堤防の改修や港湾工事などによる河口部の改変、防潮堤建設なども生息を脅かします。

(執筆：五十嵐 由里)

コウチュウ目コガネムシ科

ダイコクコガネ

Copris ochus

宮城県 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	環境省 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------------------	--------------------



(撮影：新井 孝明)

主に哺乳類の糞を食べる「糞虫(ふんちゅう)」の一種で、この種は主に牛糞を食べます。体長30mmを超えることもある日本最大の糞虫です。

土に深い穴を掘り、運び入れた糞で幼虫を育てます。北海道、本州、九州、佐渡島などに分布しますが局地的で、個体数が減少しています。

県内では仙台市青葉区、川崎町、蔵王町、白石市に記録があり、主に牧場で得られていました。畜産業の衰退に加え、近代化によって自然放牧が減ったことや飼料の転換で糞の質が変化したことなどが、激減の要因と考えられています。

(執筆：斎藤 勝雄・五十嵐 由里)

コウチュウ目コガネムシ科

アカマダラハナムグリ

Anthrachophora rusticola

宮城県
準絶滅危惧 (NT)

環境省
情報不足 (DD)



(撮影：紺野 広昭)

国内では北海道、本州、四国、九州ほかに分布し、県内では旧石巻市、旧鳴瀬町、旧色麻町、仙台市青葉区・太白区、岩沼市に記録があります。体長14~20mm。

幼虫は2000年、猛禽類の巣で発見されました。その後の調査で、動物質の餌を食べて同じ巣を繰り返し利用する大型の鳥(主に猛禽類)の巣で、中に溜まった有機物を食べて成長していることがわかりました。

猛禽類の生息には、営巣する樹林と小動物を狩る餌場が必要です。里山の破壊や管理放棄による荒廃で猛禽類の生息が脅かされていることが、この種にも大きく影響します。

(執筆：五十嵐 由里)

コウチュウ目ゾウムシ科

ハマベゾウムシ

Isonycholips gotoi

宮城県
準絶滅危惧 (NT)

環境省
—



(撮影：紺野 広昭)

北海道から九州の砂浜に生息し、海中から打ち上がって砂に埋まったアマモ(アマモ科)を食べます。体長4mm内外。

県内では旧唐桑町、旧本吉町、旧河北町、旧鳴瀬町、松島町、七ヶ浜町、山元町に記録があり、震災後は旧唐桑町、旧本吉町、旧鳴瀬町、松島町で確認されましたが、既知産地の一部は水没しています。

震災による地盤沈下と復旧・復興工事による改変で砂浜が縮小し、生息環境が悪化しました。津波による海底の攪乱で激減したアマモの漂着は回復が見られますが、この種の生息が再確認されていないところがまだ多くあります。

(執筆：五十嵐 由里)

コウチュウ目ゴミムシダマシ科

ホネゴミムシダマシ

Emysara riederii

宮城県
絶滅危惧II類 (VU)

環境省
—



(撮影：五十嵐 由里、所蔵：児玉雅一)

国内では北海道、本州北部に分布し、宮城県が生息南限にあたります。砂浜に住み、自然物のゴミの下や植生周辺に見られます。体長は5.5~6mmで、上翅の斑紋には変異があります。

県内の産地は旧雄勝町の小さな砂浜で、震災後はまだ再確認されず、別の産地も見つかっていません。三陸海岸では、震災による地盤沈下と復旧・復興工事の影響で砂浜の規模が小さくなっているため、生息に十分な環境が残されていない恐れがあります。

(執筆：五十嵐 由里)

コウチュウ目カミキリムシ科

フタスジカタビロハナカミキリ

Brachyta bifasciata japonica

宮城県
絶滅危惧II類 (VU)

環境省
—



(撮影：栗野 宗博)

本州、四国に局所的に分布。ヤマシャクヤク類(ボタン科)を食草とし、幼虫は根を、成虫は花を食べます。体長16~18mm。県内では旧牡鹿町の金華山、川崎町、白石市、七ヶ宿町に記録がありますが、個体数は少なく、特に金華山以外ではきわめて稀です。

食草のヤマシャクヤク類は、開発や盗掘で激減しています。主要産地の金華山では、全島が神域として保護されていることとニホンジカが食べないことで大きな群落となっていますが、一方ニホンジカが下草や若木を食べつくして森林が荒廃しつつあり、食草群落への影響が心配されています。

(執筆：五十嵐 由里)

コウチュウ目カミキリムシ科

ヒメビロウドカミキリ

Anthrachophora rusticola

宮城県
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省
準絶滅危惧 (NT)



(撮影：粟野 宗博)

(執筆：五十嵐 由里)

本州、四国、九州、対馬に分布。個体数は少なく、山地の草原や河川敷などに局所的に生息します。キク科の草本オトコヨモギ、ヨモギなどを食草とし、幼虫は根茎に入り込み根を食べ、成虫は葉や茎を食べます。体長8.5~12mm。

県内では仙台市泉区、大河原町、白石市で記録されていますが、白石市では生息に適した草地環境が悪化し、確認できなくなったことが報告されました。草地の多くは人が管理することで維持されているので、管理が中止されると植生の遷移が進み、草地環境が好む種は姿を消してしまいます。

コウチュウ目ハムシ科

キンイロネクイハムシ

Donacia japana

宮城県
準絶滅危惧 (NT)

環境省
準絶滅危惧 (NT)



(撮影：紺野 広昭)

(執筆：五十嵐 由里)

北海道、本州、九州に分布し、食草のミクリ類(ガマ科)が生える池沼やため池に生息します。体長7.5~9mm。

県内では金成町、旧小野田町、大和町、松島町で記録されていますが、松島町の産地ではアメリカザリガニの侵入によって食草と共に消滅しました。

食草のミクリ類は希少種で生育地は限られます。また本県では低地の水路などにも生えるミクリでこの種が確認されたことはなく、丘陵から山地の池沼にのみ知られています。中山間地では、耕作放棄地が増えるにつれてため池も管理されなくなり、生息環境が失われつつあります。

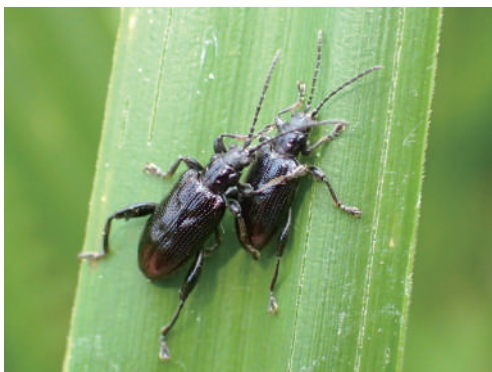
コウチュウ目ハムシ科

クロガネネクイハムシ

Donacia flemora

宮城県
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省
—



(撮影：紺野 広昭)

(執筆：五十嵐 由里)

宮城県以南の本州に分布し、山間の湿地や休耕田などに生息します。幼虫が水中で水生植物の根を食べて成長するネクイハムシの一種で、この種はカヤツリグサ科のスゲ類につきます。成虫は全身光沢のある黒色で体長6.5~7mm、スゲ類の葉に集まります。

県内唯一の産地丸森町では、山間の水田周辺で弱い水流のある湿地に生息していましたが、耕作が中止されたことによって植生の遷移が急激に進行し、生息環境が悪化しています。

コウチュウ目ハムシ科

オオルリハムシ

Chrysolina virgata

宮城県
準絶滅危惧 (NT)

環境省
準絶滅危惧 (NT)



(撮影：五十嵐 由里)

(執筆：五十嵐 由里)

本州、九州に分布し、食草のシロネ類(シソ科)が生える湿地に生息します。体長11~15mm、体の色彩に地域変異があります。

県内では北上川、鳴瀬川、涌谷町、七ヶ浜町、伊豆沼、旧田尻町、名取市、丸森町に記録があり、河川敷や湖沼周辺、山間の湿地などに生息しています。

生息域は比較的水位が低くて人里に近いため、しばしば改変、利用されます。丸森町の農耕地周辺の生息地は、耕作の中止によって植生の遷移が急激に進行、河川敷の生息地では震災で沈下した地盤が上昇して乾いた草地に移行しつつあり、生息環境が悪化しています。

ハチ目セイボウ科

オオセイボウ

Stilbum cyanurum

宮城県
絶滅危惧II類 (VU)

環境省
情報不足 (DD)



(撮影：郷右近 勝夫)

体長7~20mm。色彩は変化に富むが、日本の個体は概ね青緑色で飛ぶ姿から“飛ぶ宝石”の名にふさわしいハチです。また、頭部が著しく細長いのが特徴です。国外では朝鮮半島・台湾・東南アジアに広く分布します。県内では、仙台湾海浜の山元町、岩沼市、亶理町および仙台市宮城野区の南蒲生に生息します。

さらに最近では、内陸部の利府町や仙台市青葉区上愛子などでも生息が記録されていますが、観察の機会は極めて少ないです。このハチは、日本ではドロバチ科のスズバチの巣内の幼生に、泥壺の外から、長い産卵管を差し込んで寄生します。

(執筆：郷右近 勝夫)

ハチ目ギングチバチ科

ニッポンハナダカバチ

Bembix niponica

宮城県
絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省
絶滅危惧II類 (VU)



(撮影：郷右近 勝夫)

体長20~25mm。黒地に乳白色の横縞が目立つ大型のハチです。県内では主に海浜の砂地に営巣し、成虫は6月下旬~8月上旬に活動します。雌バチは地中約20cmの深さに斜坑を掘って育室を作り、アブ・ハエなどを狩って幼虫の餌とします。かつては全国に生息が知られていましたが、近年では生息環境の悪化にともなって、各地で激減しています。

大震災以降の復旧工事後、二ノ倉海浜の集団営巣地は消滅しましたが、それより北方向の海浜では、辛うじて生息が継続しています。また、海浜の内陸寄りの公園の砂場にも巣作りすることがあります。

(執筆：郷右近 勝夫)

ハチ目クモバチ科

アカゴシクモバチ(=アカゴシベッコウ)

Anopilus reflexus

宮城県
準絶滅危惧 (NT)

環境省
—



(撮影：郷右近 勝夫)

体長7~10mm。黒色で腹部第1,2節が赤色なのが特徴の海浜性のカリバチです。県内各地の海浜の砂浜に特化して生息します。成虫は6月~10月頃までに活動します。小型のクモを一匹狩るごとに、砂地に浅い坑道を掘り、育室を作って幼虫の餌とします。日本各地の砂浜海岸に生息し、数m四方の広さに数10巣の規模で、集団営巣することもあります。

震災以前には、仙台湾の砂浜海岸に多く営巣が観察されていました。しかし、震災復旧工事によりこのハチの好適な砂地の消失に伴い、個体数が激減したことにより、絶滅が危惧されます。

(執筆：郷右近 勝夫)

ハチ目ギングチバチ科

ヤマトスナハキバチ

Bembecinus hungaricus japonicus

宮城県
準絶滅危惧 (NT)

環境省
情報不足 (DD)



(撮影：郷右近 勝夫)

体長8~12mm。黒色で腹部節背板の縁に黄帯が目立つ。旧北区に分布し、日本では南琉球を除き全域に分布します。県内では、7月から10月初旬まで活動します。海浜の砂地に浅い多育房巣を作り、ヨコバイ類を狩り幼虫の餌にします。狩りバチ類では例外的に、育房底の砂粒1個の上に卵を直立に産み付けます。その後でヨコバイ類を狩り、育房に貯め込んだ後で巣口を砂で閉鎖します。

震災後数年間は急激に減少しましたが、その後徐々に回復傾向にあります。和名は、巣作りの際に前脚を用いて、砂粒を後方に吹き飛ばすことに由来します。

(執筆：郷右近 勝夫)

ハチ目ギングチバチ科

キスジツチスガリ

Cerceris arenaria yanoi

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 —
-----------------------	----------



(撮影：郷右近 勝夫)

体長10～15mm。黒色で腹部第2から第6背板の縁に黄帯が目立ちます。日本のほか、中国、ユーラシアおよび北アフリカに広く分布します。県内では、蒲生干潟砂丘・南蒲生(仙台市)、北釜(名取市)、磯浜(山元町)に生息します。

震災以前には、仙台湾海浜に広く生息していましたが、震災以降は上記の3つの地域で激減しています。砂地に50cm以上の深い巣を掘り、ヒョウタンゾウムシ類を狩り幼虫の餌とします。このハチにとっての好適な砂地営巣環境は、旧海岸林の間に形成される砂のギャップ地の回復が望まれます。

(執筆：郷右近 勝夫)

ハチ目ハキリバチ科

トモンハナバチ

Anthidium septemspinosum

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 —
-----------------------	----------



(撮影：郷右近 勝夫)

体長14～18mm。腹部に5対の黄色の紋があり、ハナバチ類では例外的に雌に比べて雄の方が大きいハチです。朝鮮半島から欧州にかけて広く分布します。成虫は8月～9月に活動し、主にミソハギ、ツルフジバカマ、メハジキに訪花すること以外に、詳しい生態は分かっていません。

県内では、北上川(旧津山町)および阿武隈川(岩沼市)の河川敷のごく狭い地域で記録されているに過ぎません。最近では、河川敷にはアレチウリやクズなどの「つる植物」の繁茂が著しく、訪花植物種の消失に伴う絶滅が気がかりです。

(執筆：郷右近 勝夫)

ハチ目コハナバチ科

アオスジハナバチ

Nomia incerta

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 —
-----------------------	----------



(撮影：郷右近 勝夫)

体長10mm。雌雄ともに腹部に青緑色の横帯があるハナバチです。日本のほかに朝鮮半島からインドに広く分布する暖地系の種で、成虫は8月～9月に活動します。県内では、仙台市・大和町・利府町で生息が確認されていますが、きわめて局所的で、主にハギ類の花を訪れます。本種は、粘土質の裸地に巣をつくります。

このハナバチは80年代初頭までは、前記の地域で記録できましたが、その後採れなくなり2010年代になって再記録されるまで、約30年間の空白がありました。最近では、クズの繁殖などによるヤマハギの急速な消失が気がかりです。

(執筆：郷右近 勝夫)

ハチ目ハキリバチ科

キヌゲハキリバチ

Megachile kobensis

宮城県 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	環境省 —
--------------------	----------



(撮影：郷右近 勝夫)

体長10～13mm。黒色で頭、胸部の毛は灰白色の小型のハキリバチです。また、雄の触覚先端部は半円筒状に変形するのが特徴です。日本の北海道と沖縄を除いた地域に広く分布し、主に砂浜海岸に生息します。県内では、震災後6・7年間は著しい個体数の減少が見られたが、その後徐々に回復傾向にあります。

雌は砂地の草の根元に浅い坑道を掘り、次いで近くの植物から葉片を切り取り育房を作ります。その後、花から花粉・蜜を集めて育房に花粉団子を貯え産卵します。このハチは、営巣に適した砂地のほかにも朽ちた流木にも巣作りすることがあります。

(執筆：郷右近 勝夫)

ハチ目ハキリバチ科

クズハキリバチ

Megachile pseudomonticola

宮城県
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省
情報不足 (DD)



(撮影：郷右近 勝夫)

体長17~20mm。胸部の毛は黄褐色、腹部第1節背板に密な黄褐色の毛があり、類似のスミスハキリバチと区別できます。日本(北海道と南西諸島を除く)のほか、中国と台湾に分布します。7月から8月に活動し、マメ科やミソハギなどの花に訪花します。もっぱら朽木(庭木の古木など)に集団営巣することがあります。

雌バチは、主にクズの葉片を切り取って育房を作り、その中に花粉・蜜の団子を貯え1卵を産下します。街中の古木にも営巣が観察されていますが、大型のハキリバチの割にはこのハチは、滅多に見かけない希少種です。

(執筆：郷右近 勝夫)

チョウ目セセリチョウ科

ホシチャバネセセリ

Aeromachus inachus inachus

宮城県
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省
絶滅危惧ⅠB類 (EN)



(撮影：阿部 剛)

はねを開いたときの幅が2.5cmほどで、小型のチョウの中でも特に小さいです。はねの表は紫色を帯びた褐色で前ばねに小さな白い点があり、裏面は黄土色です。成虫は年1回7~8月に見られ、幼虫はオオアブラススキを食べます。

国内では本州、対馬に分布しますが、全国的に減少している種です。県内でも2005年以降に生息が確認されているのは、気仙沼市、仙台市(青葉区・太白区)、白石市のみで、生息地である疎林、林縁、草地などの管理放棄により、環境が悪化し個体数が減少しております。

(執筆：阿部 剛)

チョウ目セセリチョウ科

チャマダラセセリ

Pyrgus maculatus maculatus

宮城県
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省
絶滅危惧ⅠB類 (EN)



(撮影：阿部 剛)

全国的に減少傾向が著しい種です。はねを開いたときの幅が2.5~3cmほどの小型のチョウです。はねの表は黒色で白い斑点があり、裏は赤茶色をしています。成虫は4~5月と7~8月に見られ、幼虫はミツバツチグリ、キジムシロなどを食べます。牧場、採草地、スキー場などの人為的に管理されてきた草原や植林地、伐採地などに一時的にできる草地に生息します。生息地である草原の減少、農地の管理放棄による原野化などで、生息地、個体数とも急激に減少しております。2005年以降で記録があるのは蔵王町のみとなり、絶滅の恐れがあります。

(執筆：阿部 剛)

チョウ目アゲハチョウ科

ヒメギフチョウ本州亜種

Luehdorfia puziloi inexpecta

宮城県
準絶滅危惧 (NT)

環境省
準絶滅危惧 (NT)



(撮影：阿部 剛)

里山のシンボルの昆虫として知られています。成虫は3月末から4月の早春のみ見られ、丘陵地~山地の雑木林や植林地の林床を低く飛び、カタクリやスミレの花で吸蜜します。

はねを開いたときの幅が5~6cmほどで、アゲハチョウの仲間です。黄色と黒の縞模様で、後ばねには青や赤の紋があり、とても美しいです。幼虫はトウゴクサインを食べ初夏に蛹になり、翌春までの長い期間、蛹のまま過ごします。かつては県内に広く生息していましたが、雑木林の老廃や開発などにより、消滅した生息地も多くあります。

(執筆：阿部 剛)

チョウ目シロチョウ科

ヒメシロチョウ

Leptidea amurensis

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 絶滅危惧ⅠB類 (EN)
-----------------------	---------------------



(撮影：阿部 剛)

(執筆：阿部 剛)

はねを開いたときの幅は4~5cmほどで、白い横長のはねと細い体で、弱々しく飛びます。成虫は4~9月の間に年3回発生し、幼虫はツルフジバカマを食べます。

かつて、県内に広く分布していましたが、現在、生息が確認されているのは、県北東部の適度な草刈りなどによって環境が良好に維持されている場所のみとなりました。河川の堤防改修、草原や堤防の採草・草刈りの廃止によるツルフジバカマの衰退などで、多くの産地が消滅しました。生息地が人為的影響を受けやすいため、生息環境の維持が必要です。

チョウ目シジミチョウ科

ウラジロミドリシジミ

Favonius saphirinus

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 —
-----------------------	----------



(撮影：阿部 剛)

(執筆：阿部 剛)

はねを開いたときの幅が3cmほどの小ささで、オスのはねの表が青みの強い金緑色に輝くとても美しいチョウです。メスのはねの表はこげ茶色で、オスメスともはねの裏面は白色をしています。県内での幼虫の餌はカシワのみで、生息地が限られます。成虫は年1回発生し7~8月に見られ、日中は葉上に静止し、オスは夕暮れにカシワの梢を活発に飛翔します。

県内では、これまで丸森町と白石市のみで記録されておりましたが、丸森町の産地がダム建設により消滅したことにより、白石市のカシワ林が宮城県で唯一の生息地になってしまいました。

チョウ目シジミチョウ科

ムモンアカシジミ

Shirozua jonasi

宮城県 準絶滅危惧 (NT)	環境省 —
-------------------	----------



(撮影：阿部 剛)

(執筆：阿部 剛)

はねを開いたときの幅が4cmほどの小型のチョウですが、はねの表裏とも鮮やかなオレンジ色で、とても目立ちます。成虫は7~8月に見られます。幼虫は半肉食性で、植物のクヌギやクリなどを食べるほか、肉食でアブラムシやカイガラムシ類も食べます。

また、クサアリと共生する特殊な生態から、生息地ではクサアリが好む数本の発生木に依存している場合が多く、極めて局地的な分布をしています。発生木の伐採などで、生息地が減少傾向にあります。

チョウ目シジミチョウ科

ミヤマシジミ

Plebejus argyrognomon praeterinsularis

宮城県 絶滅 (EX)	環境省 絶滅危惧ⅠB類 (EN)
----------------	---------------------



(撮影：阿部 剛、撮影地：栃木県 [左メス、右オス])

(執筆：阿部 剛)

本州に分布し、全国的に減少している種です。はねを開いたときの幅が3cmほどの小型のチョウで、オスのはねの表は青色、メスは黒色です。県内での生息地は河川の氾濫があるような河原や堤防で、幼虫はコマツナギを食べ、成虫は春~秋にかけて4回ほど発生していました。

県内では、白石市、蔵王町、大河原町の白石川および白石川支流の松川と児捨川の流域で確認されていましたが、ダム建設による洪水の調整や、河川環境の変化に伴うコマツナギの衰退により、1987年の確認を最後に、記録が途絶え絶滅しました。

チョウ目シャクガ科

フタスジギンエダシャク

Megaspilates mundataria

宮城県 準絶滅危惧 (NT)	環境省 —
-------------------	----------



(撮影：青木 俊彦)

(執筆：青木 俊彦)

前翅、後翅とも純白で、前翅の2本の黒褐色の斜帯が特徴的な美しい蛾です。6月ごろに草原などに現れ、本州、四国、九州に局地的に生息しています。

県内では1990年代までに川崎町、蔵王町、白石市で記録されていました。その後記録が途絶えていましたが2020年に南三陸町で再発見されました。

生息環境は草地、草原などで、このような環境は縮小、荒廃しやすく、さらには改変等が及びやすいことが減少の要因と思われる。

チョウ目ヤガ科

コシロシタバ

Catocala actaea

宮城県 準絶滅危惧 (NT)	環境省 準絶滅危惧 (NT)
-------------------	-------------------



(撮影：青木 俊彦)

(執筆：青木 俊彦)

前翅は暗色の中に複雑な模様があります。後翅は黒く、大きな白色の斑紋が目立ちます。幼虫はクヌギなどを食べ、低地の里山に生息します。北海道から九州まで分布し、盛夏8月頃に現れますが、花に来ることはなく樹液を吸いにクヌギなどを訪れます。

県内では1990年代までに旧石巻市、仙台市、県南部地域などで記録されていました。その後記録が途絶えましたが2021年に大衡村で再発見されています。低地、里山の雑木林は宅地開発などにより多くが失われ、生息に適した環境が少なくなっていることが減少の要因と考えられます。

チョウ目ドクガ科

ウスジロドクガ

Calliteara virginea

宮城県 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	環境省 準絶滅危惧 (NT)
-------------------------	-------------------



(撮影：青木 俊彦)

(執筆：青木 俊彦)

翅は純白、後翅の基半はやや黒っぽくなります。「ドクガ」という名前ですが美しい蛾です。5～6月に出現し本州、九州(大分県)に分布します。本州では中部地方、東北地方の草原にまれに産することが知られています。幼虫がハギ類を食べるので生息地は草原ですが、開発等の影響を受けやすい種です。

県内では1968年に蔵王町遠刈田で記録されました。その後記録がなく絶滅が心配されていましたが、50年以上経った2021年に県北の鬼首での生息が判明しました。ただ現地の環境の変化から今後の生息が危ぶまれる状況です。

チョウ目ヤガ科

タカオキリガ

Pseudopanolis takao

宮城県 情報不足 (DD)	環境省 —
------------------	----------



(撮影：梅津 一史)

(執筆：青木 俊彦)

前翅はやや細長く、先端近くにある黄褐色部が印象的です。早春3～4月頃に出現する日本固有種で本州、四国、九州に分布しますが、これまでに知られている生息地は限られています。

本県では牡鹿半島の一部で見つかっていて、これが国内分布北限になっています。本県で記録されたのは1990年代のことで2000年以降は見つかっていません。

幼虫の食餌植物はモミです。モミは本県では丘陵地から沿岸部まで見られますが、本種が見つからないのは不思議です。

(6) 海岸地域の無脊椎動物類

オニノツノガイ目ウミミナ科

イボウミナ

Batillaria zonalis

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
-----------------------	--------------------



(撮影：鈴木 孝男)

(執筆：海岸動物分科会)

殻長4.5cmの巻貝で細長い円錐形です。殻頂は尖っています。ホソウミナによく似ていますが、殻口の外側が深く湾入することで区別できます。潮間帯の砂泥底に生息しますが、干潟の陸側に近い部分には分布しません。琉球列島や一部地域を除いて日本全土で絶滅寸前であり、関東以北では宮城県内の数カ所のみで生息が確認されています。県内における生息地は少なく、生息範囲も極めて狭いため、堤防建設や護岸工事などに伴う生息場所（潮間帯下部の干潟周辺海域）の喪失や生息環境の改変が生存にとっての脅威となります。

オニノツノガイ目キバウミナ科

カワアイ

Pirenella pupiformis

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
-----------------------	--------------------



(撮影：鈴木 孝男)

(執筆：海岸動物分科会)

殻長4cmの細長い円錐形をした巻貝です。殻の色は褐色で石畳状の彫刻があります。年を経た個体では殻の表面が摩耗します。螺層の膨らみは弱いです。内湾奥部の潮間帯において、泥質～軟泥質の干潟上に生息します。宮城県が分布の北限です。生息場所が極めて限られているため、岸辺における工事等で干潟が埋め立てられたりすると絶滅してしまいます。震災後は、松島湾と万石浦の一部のみ生息していることが確認されていますが、特に万石浦の個体群は安定しており、幼生供給源として重要です。

オニノツノガイ目キバウミナ科

フトヘナタリ

Cerithidea moerchii

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 準絶滅危惧 (NT)
-----------------------	-------------------



(撮影：鈴木 孝男)

(執筆：海岸動物分科会)

殻長4cmの巻貝です。殻は円筒状で太いです。ほとんどの成貝では殻頂部が欠落します。年を経た個体では殻表面がすり減り、白っぽく、細くなります。螺層の膨らみは弱く、殻表は螺肋が目立ちます。潮間帯上部のヨシ原やその付近の底質上に見られ、ヨシや岩に這い上ります。宮城県では震災に伴う大津波で本種の生息環境はほぼ全てが大きく攪乱され、各地でほとんどが絶滅しました。仙台湾が分布域の北限です。仙台湾岸のヨシ原では、現在、蒲生干潟の個体群は激減し、松島湾でも限られた場所に生息するのみです。

エゾタマキビ目カワザンショウ科

ヨシダカワザンショウ

"Augustassiminea" yoshidayukioi

宮城県 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	環境省 準絶滅危惧 (NT)
--------------------	-------------------



(撮影：鈴木 孝男)

(執筆：海岸動物分科会)

殻長3mmの巻貝でカワザンショウ類の中では小型です。クリイロカワザンショウの幼貝とよく似ていますが、軟体部背面は灰白色で、殻の巻きがよく膨らみ光沢が強く、臍孔が開くことで区別できます。潮間帯上部よりも上側のヨシ原内に生息します。カワザンショウ類では最も生息場所が限られており個体数も少ないです。日本固有種で、近年、南三陸沿岸や仙台湾沿岸では比較的多くの場所で生息が確認されていますが、希少です。生息場所が、ヨシ原の上部で地高の高いところに限られていることから、堤防建設や護岸工事等の影響を受けやすいです。

エゾタマキビ目イツマデガイ科

クビキレガイモドキ

Cecina manchurica

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 準絶滅危惧 (NT)
-----------------------	-------------------



(撮影：鈴木 孝男)

(執筆：海岸動物分科会)

殻長7mmの細長い円錐形をした巻貝で、成長した個体では殻頂が欠けます。殻は薄く、半透明に近いです。殻表は平滑で光沢があります。内湾奥の海岸に打上げられた漂着物や転石の下に生息しています。太平洋側では仙台湾が分布の南限です。震災前は志津川湾、松島湾、万石浦で記録されており、これらの場所では震災後も生息が確認されましたが、生息場所は極めて限られています。また、生息数も少なく、減少傾向が著しいです。潮間帯上部に生息することから、堤防建設や護岸工事等で生息場所が破壊されると生存が脅かされます。

オカミミガイ目オカミミガイ科

ナギサノシタタリ

Microtralia acteocinoides

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 —
-----------------------	----------



(撮影：鈴木 孝男)

(執筆：海岸動物分科会)

殻長5mmの米粒形をした白色の巻貝で、日本固有種です。殻質は薄く半透明です。内湾から外洋にかけての波しぶきがかかるような転石帯で、転石の下や打上げ物の中に生息しています。また、内湾奥のヨシ原の周辺で見つかることもあります。北海道南部以南に分布するとされています。宮城県では、震災前に、志津川湾、松島湾、万石浦で生息が確認されました。震災後は、舞根湾や万石浦で極めて少数が確認されたのみでした。その後2022年以降には、気仙沼市の数カ所、志津川湾、大室漁港などにおいて、転石帯で確認されましたが、希少です。

ウロコガイ目チリハギ科

スジホシムシモドキヤドリガイ

Nipponomysella subtruncata

宮城県 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	環境省 準絶滅危惧 (NT)
--------------------	-------------------



(撮影：阿部 博和)

(執筆：海岸動物分科会)

殻長5mmの二枚貝で、日本固有種です。内湾の干潟～潮下帯の砂泥中に深く潜って生息するスジホシムシモドキの体表に附着します。スジホシムシには着生しません。殻は長卵形の白色半透明で、膨らみは弱いです。本種の分布は西日本が中心であり、東日本での記録は非常に限られています。また、宿主であるスジホシムシモドキも希少な存在であることから希少性は高いと言えます。近年、東北地方では、青森県、佐渡島、宮城県で記録されました。宮城県では2022年と2024年に万石浦渡波の水路部の干潟で確認されましたが、他の場所での記録はありません。

マルスダレガイ目マルスダレガイ科

ハマグリ

Meretrix lusoria

宮城県 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	環境省 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------------------	--------------------



(撮影：鈴木 孝男)

(執筆：海岸動物分科会)

殻長8cmを越える大型の二枚貝です。殻は丸みを帯びた三角形で、表面には光沢があり、美しい貝で個体による色彩変異が多いです。よく似ているチョウセンハマグリは腹縁がより直線的で、シナハマグリは背縁が曲線的ですが、本種は直線的です。陸奥湾以南の内湾の潮間帯下部から水深20mの砂泥底に生息します。1960年代までは潮干狩の対象種になるほど多く生息していましたが、その後激減しました。宮城県では、震災後に仙台湾以南の各地で見られるようになってきています。しかし、個体群としては安定しておらず、少数がたまに見つかる程度です。

(ツバサゴカイ類) ツバサゴカイ科

ツバサゴカイ

Chaetopterus cautus

宮城県 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	環境省 絶滅危惧ⅠB類 (EN)
--------------------	---------------------



(撮影：阿部 拓三、棲管写真は鈴木 孝男)

体長約30cmの環形動物です。体には鳥の翼のような足があり、体色は白っぽく柔らかいです。砂泥底中に埋れし、羊皮紙のような丈夫な膜でできたU字型の棲管中に棲んでいます。地中の棲管は太く、直径2cmになります。棲管の先端はストロー状になり、両端が底土上に出ています。棲管内に共生性のカニ類が棲みついていることがあります。潮間帯の干潟から水深5mの砂泥底に埋もれて生息します。宮城県では、震災前後を通じ、万石浦と松島湾など、少数の干潟での生息が確認されているだけです。生息好適地が限られており、個体数も少なく、希少です。

(執筆：海岸動物分科会)

端脚目ユンボソコエビ科

サンリクドロソコエビ

Grandidierella sanrikuensis

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 情報不足 (DD)
-----------------------	------------------



(撮影：鈴木 孝男)

体長8-10mmのヨコエビ類です。生時の体色は淡赤褐色から淡桃色で触角が淡紅色をしています。動きは非常に緩慢です。海水交換のよい汽水域の潮間帯中部から上部の転石下や小礫間に棲孔を掘って生息しており、極めて特異な生息環境に依存しています。宮城県の舞根湾、志津川湾(細浦)、万石浦の3カ所で発見され、これを元に2017年に新種として記載されました。宮城県の数カ所だけに生息している貴重な存在です。近年、新たな生息地が見つかりましたが、生息環境が特殊で限られていることから、岸辺で工事が行われ生息環境が改変されると、絶滅が危惧されます。

(執筆：海岸動物分科会)

(ホシムシ類) スジホシムシ科

スジホシムシ

Sipunculus nudus

宮城県 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	環境省 準絶滅危惧 (NT)
--------------------	-------------------



(撮影：鈴木 孝男)

体長が20cmに達する、細長いソーセージのような環形動物です。体表は乳白色～淡褐色で光沢があり、全面に格子状の溝が走ります。陥入物は短く、3cmほどです。よく似ているスジホシムシモドキは、体表の光沢が弱く、細い横筋が見られる点で区別できます。規模の大きな干潟から浅海域にかけて見られ、海水の交換の良い砂泥中に生息しています。暖水性の汎存種とされていますが複数種が含まれる可能性があります。日本では陸奥湾以南に分布していますが、宮城県では松島湾でのみ記録されています。

(執筆：海岸動物分科会)

十脚目モクズガニ科

ハマガニ

Chasmagnathus convexus

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 準絶滅危惧 (NT)
-----------------------	-------------------



(撮影：鈴木 孝男)

甲らの幅が5cmにもなるカニで、甲らは丸く盛り上がり、中央の溝が深いです。甲らの縁取りははっきりしており、紫色を帯びています。ヨシ原に穴を掘って生息し、主に夜間に活動します。植物食でヨシの葉や茎を食べます。震災前は、蒲生干潟や牛橋河口のヨシ原などで少数個体が見られましたが、近年、県内ではほとんど見られなくなっており、絶滅が危惧される状況になっていました。その後、最近になって、南三陸の津谷川河口や仙台湾沿岸の数カ所で生息が確認されましたが、いずれもごく少数であり、注視していくことが必要です。

(執筆：海岸動物分科会)

十脚目ベンケイガニ科

アカテガニ

Chiromantes haematocheir

宮城県 準絶滅危惧 (NT)	環境省 —
-------------------	----------



(撮影：鈴木 孝男)

甲らの幅が3cmほどのカニです。ハサミは赤く表面は平らでツルツルしています。成熟した個体では、体全体が真っ赤になるものもいます。甲らの側面に明瞭な切れ込みが無く、複眼の間の額部は隆起がなく直線状です。干潟海岸のヨシ原とその近辺の土手や松林に生息しています。夏の大潮満潮の時に、卵を抱いたメスが海辺まで移動し、水中で幼生を孵化させます。宮城県内の各地で見られる種でしたが、近年、個体数が減少傾向にあります。土手や松林と海との間に堤防等の構造物が設置されると、海との往来が妨げられて個体群を維持できなくなります。

(執筆：海岸動物分科会)

(7) 淡水産貝類

イシガイ目イシガイ科

メンカラスガイ

Cristaria clessini

宮城県 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	環境省 絶滅危惧 II 類 (VU)
-------------------------	-----------------------



(撮影：鈴木 勝利)

本種は県内では生息地が限られ、県内最大の生息地である伊豆沼・内沼では水質悪化などにより個体数の減少が続いています。卵形で殻長は200mmを超える大型種で、幼貝には翼状突起が見られ、近似種ヌマガイと区別できます。水質汚濁や底質の泥化の影響を受けやすく、幼生の宿主となるハゼ類が外来魚の食害で減少すると繁殖も困難になります。近藤(2020)により、種名がカラスガイからメンカラスガイに変更されました。

(執筆：藤本 泰文)

十脚目スナガニ科

スナガニ

Ocypode stimpsoni

宮城県 絶滅危惧 II 類 (VU)	環境省 —
-----------------------	----------



(撮影：鈴木 孝男)

甲らの幅が3cmほどのカニです。眼柄は太くて短く、目が大きいです。スナガニとツノメガニ、ナンヨウスナガニの3種は、甲らの下の斑紋の形状、ハサミ脚の色、ハサミ脚の内側にある顆粒列の有無や配置で区別できます。砂浜の満潮線付近に深さ数十cmの巣穴を掘ります。主に夜間に出てきて砂浜を素早く動き回って餌をとりまわります。分布の北限は北海道小樽市です。宮城県内の砂浜では、かつてどこにでも見られましたが、近年は生息地が減少しました。震災後は、南三陸沿岸や仙台湾沿いの砂浜で個体数が回復してきていますが、まだ多くはありません。

(執筆：海岸動物分科会)

イシガイ目カワシンジュガイ科

カワシンジュガイ

Margaritifera laevis

宮城県 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	環境省 絶滅危惧 I B 類 (EN)
-------------------------	------------------------



(撮影：鈴木 勝利)

本種は県内で2地点にのみ生息し、いずれも生息密度が低く絶滅が懸念されます。国内では北海道から中国地方の河川上流域に分布し、県内では中間山地の2地点で確認されています。殻長は約100mmで、前閉殻筋痕が丸い耳形状となる点で近縁種と区別できます。河川や水路の改修、水切れ、採集圧の影響を受けやすく、成熟まで数年を要するため、個体群が損なわれると回復に時間がかかります。2022年に特定第二種国内希少野生動植物種に指定され、販売等を目的とした採集は禁止されています。

(執筆：藤本 泰文)

ニナ（中腹足）目エゾマメタニシ科

マメタニシ

Parafossarulus manchouricus japonicus

宮城県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	環境省 絶滅危惧ⅠA類 (CR)
-----------------------	---------------------



(撮影：藤本 泰文)

(執筆：藤本 泰文)

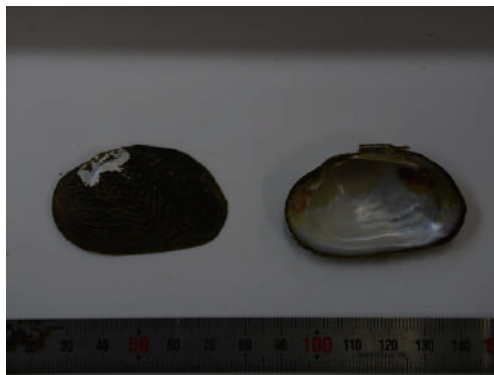
本種の県内の生息地は現在1か所のみで、依然として厳しい状況にあるため選定しました。かつて県北一帯に広く分布していましたが、現在は伊豆沼・内沼のみで確認されています。殻高は約6mmで、螺層に太い螺肋が入る点の特徴ですが、螺肋が不明瞭な個体も見られます。生息域が大きく縮小した背景には、河川や湖沼の環境悪化に加え、本種が肝吸虫の中間宿主であることから、過去に行われた防除目的の農薬散布の影響もあったと考えられます。

イシガイ目イシガイ科

マツカサガイ北東本州固有種

Pronodularia cf. japonensis 3

宮城県 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	環境省 準絶滅危惧 (NT)
--------------------	-------------------



(撮影：藤本 泰文)

(執筆：藤本 泰文)

本種は県内では数カ所だけで確認されており、生息情報も不足しているため、生息地の見落としの可能性を含めつつ、絶滅が懸念されると判断しました。青森県から関東までの太平洋流入河川に分布し、県内では平野部の流れがある砂質の水路で記録されています。殻は卵円形で逆V字模様の特徴です。河川改修で生息地が失われやすく、近縁のヨコハマシジラガイと酷似するため識別が難しい場合があります。近藤(2020)により、本種はマツカサガイ北東本州固有種と整理されました。

5 群落・群集 (1) 植物群落

① 単一群落

単-50 西風蕃山のモミ・イヌブナ群落

宮城県カテゴリー

2

仙台市青葉区下愛子にある西風蕃山の山頂(標高373m)付近には、宮城県の丘陵地・里山の原植生の面影を留める発達した森が残存し、「宮城県緑地環境保全地域」や「仙台市特別緑地保全地区」に指定されています。樹高28m前後のモミと、イヌブナやブナ、イタヤカエデ(広義)などの落葉広葉樹が混交し、林内では早春にカタクリやショウジョウバカマなどが、初夏にはヤマツツジやレンゲツツジなどが咲き誇ります。

種多様性が高く、四季折々を鮮やかに彩るこの中間温帯林は、多くの動物を育み、暖温帯と冷温帯を繋ぐ生態系としてとても貴重です。

(執筆：齊藤 賢治)



(撮影：滝口 政彦、2022年10月30日)

単-79 北上川(旧追波川)のヨシ群落

宮城県カテゴリー

3

石巻市の北上川(旧追波川)下流域には、ヨシ群落(ヨシ)が日本有数の規模で広がっており、「日本の重要湿地500」に指定されています。昔ながらのヨシ刈りやヨシ焼きも行われ、収穫されるヨシ稈は良質の伝統建築資材として親しまれてきました。

一見単純に見えるヨシ群落ですが、水位や塩分の違いに応じてシオクグ、ヒメガマ、オギ、ヤナギ類などが生育し、多くの絶滅危惧植物も見られます。また、ヨシ群落は鳥類や昆虫類、魚類などの生息場となり、環境教育や観光でも活用されています。東北地方太平洋沖地震・津波によって甚大な被害を受けましたが、自律的に回復しています。

(執筆：西中(沖田) 董)



(撮影：平吹 喜彦、2022年11月5日)

植物群落

② 群落複合

複-1 栗駒山の自然植生

宮城県カテゴリー

2

栗駒山は宮城県の北西部にある標高1626mの山塊で、全体が「栗駒国定公園」に指定されています。標高1100m付近を境にふもとには雄大なブナ林が、直上の亜高山帯には落葉低木林が広がり、さらに山頂に近づくとハイマツ群落や雪田が現れるなど、標高に応じて多彩な原植生が見られます。

栗駒山は花の百名山としても知られ、初夏から様々な高山植物が咲き誇ります。また、秋の紅葉は「神の絨毯(じゅうたん)」と称されるほど絶景で、来訪者を楽しませてくれます。

登山の際は貴重な植生・生態系を守るため、登山道を外れない、植物や表土を踏み荒らさないなどの配慮が求められます。

(執筆: 西中(沖田) 董)



(撮影: 吉田 馨、2021年8月11日)

複-16 荒沢湖沼群地域の沼沢地植物群落

宮城県カテゴリー

2

加美町小野田の船形山山塊北東山麓に位置する広大な地滑り跡地で、複雑に波打つ地形に応じて、大小30以上の湖沼と湿原、湿地林などが連なっています。多様で原生的な植物群落の数々は極めて貴重で、「加美町指定天然記念物」や「宮城県自然環境保全地域」などに指定され、保護と利活用が推進されてきました。

例えば湖水域にはフトヒルムシロ群落、湖岸にはミツガシワ群落、低湿地にはハンノキミズバショウ群落といったように、水深や土質に応じた植生が分布しています。雪解け期、群生するミズバショウの開花は壮観で、多くの人が散策に訪れます。

(執筆: 齊藤 賢治)



(撮影: 平吹 喜彦、2023年8月12日)

表1 希少な植物群落の一覧(単一群落)

「カテゴリー」には、今回のRDB2026の判定に加え、これまでのRDB(2016年、2001年)とRL(2021年、2013年)の判定を併記。「指定状況」内の「特定植物群落」の項目で表示した算用数字は『第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書』(環境庁自然保護局生物多様性センター、2000)の掲載番号。また、「その他」の項目で表示したアルファベットは、A: ラムサール条約指定湿地、B: 重要湿地、C: 鳥獣保護区特別保護地域、D: 野鳥の森、E: 自然共生サイト、F: 市町村条例等による指定。

整理番号	希少群落名	カテゴリー					所在地	指定状況					
		RDB 2026	RL 2021	RDB 2016	RL 2013	RDB 2001		記念物	自然公園	県保全地域	保護林	特定植物群落(No.)	その他
1	馬ノ神岳のカラマツ群落	3	3	3	3	3	蔵王町遠刈田温泉、白石市福岡八宮	国定		○	70		
2	鎌内沢のクロベ・ヒノキアスナロ群落	2	2	2	2	2	大崎市鳴子温泉鬼首	国定			108		
3	千本松山のキタゴヨウ・クロベ群落	1	1	1	1	1	大和町吉田	県立		○	118		
4	自生山のスギ群落	2	2	2	2	2	大崎市鳴子温泉鬼首	国定		○	46		
5	鎌内沢のブナ群落	1	1	1	1	1	大崎市鳴子温泉鬼首	国定		○	148		
6	薬菜山のブナ群落	1	1	1	1	1	加美町字味ヶ袋	町指定	県立				
7	筆甫のブナ群落	2	2	2	2	-	丸森町筆甫						
8	手倉山のブナ・イヌブナ群落	2	2	2	2	2	丸森町筆甫・大内	県立			45		
9	有谷のヨコグラノキ群落	3	3	3	3	3	七ヶ宿町	県立			125		
10	虎岩のヨコグラノキ群落	4	4	4	4	4	白石市小原	国指定	県立		67		
11	白糸の滝のサワグルミ・トチノキ群落	1	1	1	1	1	栗原市花山	国定			143		
12	薬菜山のサワグルミ・トチノキ群落	1	1	1	1	1	加美町字味ヶ袋	町指定	県立				
13	前森のサワグルミ・トチノキ群落	1	2	1	1	1	加美町字漆沢宿	県立			114		
14	鈴沼のサワグルミ・トチノキ群落	1	1	1	1	1	色麻町小栗山	県立		○	116		
15	大倉山沓原のサワグルミ・トチノキ群落	1	1	1	1	-	大和町吉田	県立					
16	青葉南のフサザクラ群落	1	1	1	1	-	丸森町大内	県立			43		
17	保呂内沢のハレニレ群落	2	2	1	1	-	大崎市鳴子温泉鬼首	国定			126		
18	田代のハレニレ群落	1	1	1	1	1	大崎市鳴子温泉鬼首			○	48		
19	芳の平のハンノキミズバショウ群落	3	3	3	3	2	仙台市泉区	市指定	県立		120		
20	砂生田沢のミズバショウ群落	3	2	1	1	1	大和町宮床				144		
21	三住のハンノキミズバショウ群落	2	2	2	2	2	白石市福岡八宮	国定			149		
22	玉ノ木原のハンノキミズバショウ群落	2	2	2	2	2	七ヶ宿町字干蒲				73		
23	升沢のオオバヤナギ群落	4	4	4	4	3	大和町吉田	県立			117		
24	横川のオオバヤナギ群落	4	4	3	3	3	七ヶ宿町字横川・大萱	県立			71		
25	漆沢のドロノキ群落	3	3	3	3	3	加美町字漆沢宿	県立			112		
26	加美町柳瀬のシロヤナギ群落	2	2	2	2	-	加美町字漆沢宿				139		
27	花山のアズマジャクナゲ群落	2	2	2	2	2	栗原市花山	国指定		○	35		
28	徳仙丈山のススキ群落	4	4	4	4	4	気仙沼市本吉町上川内				84		
29	鬼首のススキ群落	3	3	3	3	4	大崎市鳴子温泉鬼首	国定			109		
30	六角のススキ群落	4	4	4	4	4	栗原市花山、大崎市鳴子温泉				36		
31	上品山のススキ群落	1	1	1	1	-	石巻市三輪田・高木・長面	県立					
32	不忘山東麓のススキ群落	2	2	2	2	-	白石市福岡八宮	国定					
33	干蒲のヒメサユリ群落	D	4	4	4	-	七ヶ宿町字湯原				72		
34	湯湯のイヌブナ群落	2	2	2	2	2	栗原市花山	国定			98		
35	切留のイヌブナ群落	2	2	2	2	2	栗原市花山				34		
36	鎌先のイヌブナ群落	2	2	2	2	2	白石市福岡八宮	県立			62		

整理番号	希少群落名	カテゴリー					所在地	指定状況						
		RDB 2026	RL 2021	RDB 2016	RL 2013	RDB 2001		記念物	自然公園	県保全地域	保護林	特定植物群落 (No.)	その他	
37	浅布溪谷のアカシデ群落	1	1	1	1	1	栗原市花山						99	
38	花淵山のアカシデ群落	1	1	1	1	1	大崎市鳴子温泉		国定				110	
39	鳴子溪谷のアカシデ群落	2	2	2	2	1	大崎市鳴子温泉	県指定 名勝	国定				53	C
40	湯殿山神社のイヌシデ群落	2	2	2	2	2	大崎市三本木音無						100	
41	尾崎神社のイヌシデ群落	3	3	3	3	2	石巻市渡波		県立					
42	翁倉山のアカマツ群落	3	3	3	3	-	石巻市北上町、登米市津山町	国指定 天然		○				C
43	横山不動尊のモミ群落	1	1	1	1	1	登米市津山町		国立				15	
44	柳津虚空蔵尊のモミ・イヌブナ群落	1	1	1	1	1	登米市津山町		国立				16	
45	牧山のモミ・イヌブナ群落	1	1	1	1	1	石巻市湊		県立				21	D
46	富山観音のモミ・イヌブナ群落	2	2	3	3	1	松島町手櫓	国指定 名勝	県立				92	
47	東成田のモミ・イヌブナ群落	3	3	2	2	-	大郷町東成田			○				
48	瑞巖寺のモミ群落	1	1	1	1	1	松島町松島	国指定 名勝	県立				93	
49	牧の崎のモミ・スギ群落	3	3	2	2	1	石巻市給分浜		国立		○		10	
50	西風蕃山のモミ・イヌブナ群落	2	2	2	2	2	仙台市青葉区			○		103, 136,137	F	
51	佐保山のモミ・イヌブナ群落	1	1	1	1	1	仙台市太白区			○	○	41	D	
52	高館山のモミ・ウラジロガシ群落	3	3	3	3	3	名取市高館吉田			○			105	
53	曲竹のモミ群落	4	4	4	4	4	蔵王町大字曲竹		県立				61	
54	長泉寺のモミ・ウラジロガシ群落	1	1	1	1	1	角田市角田						147	
55	斗蔵山のモミ・ウラジロガシ群落	3	3	3	3	2	角田市小田			○	○	65	D	
56	熱日高彦神社のモミ群落	1	1	1	1	1	角田市島田						131	
57	弥太郎山のモミ・イヌブナ群落	1	1	1	1	1	白石市小原				○		75	
58	青葉南のモミ・イヌブナ群落	2	2	2	2	2	丸森町大内		県立		○		44	
59	高蔵寺のケヤキ群落	3	3	3	3	3	角田市高倉	国指定 天然					64	
60	石抱きの森のケヤキ群落	2	2	2	2	2	栗原市栗駒						142	
61	室ノ沢のケヤキ群落	2	2	2	2	-	登米市東和町							
62	遂倉山のケヤキ群落	1	1	1	1	1	大和町吉田		県立				102	
63	石巻湊のケヤキ・シロダモ群落	1	1	1	1	-	石巻市吉野町						22	
64	鎌倉山のケヤキ群落	1	1	1	1	1	仙台市青葉区		県立				121	
65	棒目木のケヤキ群落	1	1	1	1	1	仙台市青葉区		県立				123	
66	寒成山のケヤキ群落	2	2	2	2	2	白石市小原、七ヶ宿町字関		県立				68	
67	鳥川のサクラバハハンノキ群落	2	2	2	2	-	七ヶ宿町字関							
68	小牛田農林高等学校林のコナラ・クリ群落	2	2	2	2	2	涌谷町下郡			○				
69	洞雲寺のコナラ群落	3	3	3	3	3	仙台市泉区						129	
70	黒森山のソコゴ群落	3	3	3	3	3	仙台市青葉区						145	
71	金津のウラジロガシ群落	1	1	1	1	1	角田市尾山			○			130	
72	旭山のシバ群落	3	3	3	3	3	石巻市河南町		県立					D
73	籠峰山のシバ群落	3	3	4	3	3	石巻市河北町		県立					
74	麓岳観音堂境内のスギ植林	2	2	2	2	-	涌谷町麓岳	町指定 天然		○				
75	鹽竈神社のスギ植林	1	1	1	1	1	塩竈市一森山						28	
76	霊屋のスギ植林	1	1	1	1	1	仙台市青葉区						39	F

整理番号	希少群落名	カテゴリー					所在地	指定状況							
		RDB 2026	RL 2021	RDB 2016	RL 2013	RDB 2001		記念物	自然公園	県保全地域	保護林	特定植物群落 (No.)	その他		
77	太白山のスギ植林	2	2	2	2	2	仙台市太白区				○		104		
78	大綱木のクヌギ植林	4	4	4	4	1	登米市東和町					○		85	
79	北上川(旧追波川)のヨシ群落	3	3	3	1	1	石巻市小船越・大森・三輪田・相野谷・中島・中野・福地・馬鞍・橋浦・針岡・釜谷・十三浜						17	B	
80	樽水ダムの子サバモ群落	2	2	2	2	2	名取市高館川上				○				
81	深川沼のエゾウキヤガラ群落	2	2	2	2	-	七ヶ浜町湊浜						94		
82	気仙沼大島のアカガシ群落	4	4	2	2	2	気仙沼市磯草		国立				2		
83	磯のスタジイ群落	3	3	3	3	3	山元町坂元						146		
84	御崎神社のタブノキ群落	1	1	1	1	1	気仙沼市唐桑町神の倉		国立				1		
85	歌津半島尾崎のタブノキ群落	1	1	1	1	1	南三陸町歌津		国立				81		
86	志津川荒島のタブノキ群落	1	1	1	1	1	南三陸町志津川		国立				13		
87	貢尻島のタブノキ群落	3	3	3	1	1	石巻市名振		国立				18		
88	出島のタブノキ群落	2	2	1	1	1	女川町出島		国立				4		
89	弁天島のタブノキ群落	3	3	3	3	3	石巻市小竹浜		県立				20		
90	小出島のタブノキ群落	4	4	1	1	1	石巻市月浦		国立						
91	石巻桂島のタブノキ群落	2	2	1	1	1	石巻市竹浜		国立				19		
92	岸山王島(泊浜)のタブノキ群落	2	2	2	2	2	石巻市泊浜		国立				5		
93	田代島のタブノキ群落	2	2	2	2	2	石巻市田代浜						11		
94	網地島のタブノキ群落	2	2	2	2	2	石巻市網地浜・長渡浜		国立				9		
95	沖山王島(泊浜)のモチノキ群落	1	1	1	1	1	石巻市泊浜		国立				141		
96	宮戸島のシャリンバイ群落	4	4	4	3	3	東松島市宮戸	国指定 名勝	県立				27		
97	鮫ヶ浦のモクゲンジ群落	2	2	2	2	-	東松島市宮戸	国指定 名勝	県立						
98	大島十八鳴浜のアカマツ群落	2	2	2	2	2	気仙沼市外浜・大初平		国立				79		
99	清崎のアカマツ群落	4	4	4	4	4	石巻市鮎川浜・十八成浜		国立				8		
100	巨釜半造のクロマツ群落	4	4	2	1	1	気仙沼市唐桑町		国立				78		
101	小前見島のクロマツ群落	4	4	4	2	-	気仙沼市中山		国立						
102	歌津半島尾崎のクロマツ群落	2	2	2	2	2	南三陸町歌津		国立				82		
103	神刺崎のクロマツ群落	2	2	2	2	2	南三陸町戸倉、石巻市十三浜		国立				83		
104	大谷海岸のハマナス群落	4	4	D	D	3	気仙沼市本吉町九多丸・三島		国立				80		
105	矢本・野蒜海岸のハマナス群落	4	4	D	4	3	東松島市浜市・野蒜		県立				91		
106	塩竈桂島のハマナス群落	3	3	-	-	-	塩竈市浦戸石浜	国指定 名勝	県立						
107	赤崎海岸のクロマツ植林	D	D	D	3	2	気仙沼市本吉町卯名沢		国立						
108	石巻長浜のクロマツ植林	4	4	4	3	-	石巻市渡波						23		
109	矢本海岸(北上運河)のクロマツ植林	4	4	4	3	3	東松島市矢本大曲～浜市						90		
110	塩竈桂島のクロマツ植林	4	4	4	3	3	塩竈市浦戸桂島	国指定 名勝	県立						
111	仙台湾岸のクロマツ植林	4	4	4	3	3	仙台市宮城野区～山元町			○			30	E	

表2 希少な植物群落の一覧(群落複合)

「カテゴリー」には、今回のRDB2026の判定に加え、これまでのRDB(2016年, 2001年)とRL(2021年, 2013年)の判定を併記。「指定状況」内の「特定植物群落」の項目で表示した算用数字は「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(環境庁自然保護局生物多様性センター, 2000)の掲載番号。また、「その他」の項目で表示したアルファベットは、A: ラムサール条約指定湿地, B: 重要湿地, C: 鳥獣保護区特別保護地域, D: 野鳥の森, E: 自然共生サイト, F: 市町村条例等による指定。

整理番号	希少群落名	カテゴリー					所在地	指定状況					
		RDB 2026	RL 2021	RDB 2016	RL 2013	RDB 2001		記念物	自然公園	県保全地域	保護林	特定植物群落(No.)	その他
1	栗駒山の自然植生	2	2	3	3	2	栗原市栗駒・花山		国定		○	33	C
2	禿岳の自然植生	1	1	1	1	1	大崎市鳴子温泉鬼首		国定			51	
3	船形山の自然植生	2	2	2	2	2	加美町漆沢宿・滝庭・青野・色麻町小栗山、大和町吉田、仙台市青葉区大倉		県立		○	57, 119	
4	蔵王山の自然植生	3	3	3	3	3	川崎町大字今宿・青根温泉、蔵王町遠刈田温泉、白石市福岡八宮、七ヶ宿町字関		国定		○	63	B, C
5	一桧山の植物群落	1	1	1	1	-	栗原市花山				○		C
6	鬼首軍沢の植物群落	1	1	1	1	-	大崎市鳴子温泉鬼首		国定			47	
7	峠田岳の植物群落	2	2	2	2	2	七ヶ宿町字峠田・字関					74	
8	世界谷地湿原の植物群落	4	4	3	3	3	栗原市栗駒		国定		○	96, 97	B
9	谷地平湿原の植物群落	2	4	4	4	4	加美町滝庭		県立		○	115	
10	塩地谷地湿原の植物群落	1	-	-	-	-	仙台市泉区		県立				
11	七ヶ宿みご谷地湿原の植物群落	2	2	2	2	-	七ヶ宿町字関						
12	ウド沼の沼辺植物群落	1	1	1	1	1	加美町宮崎					135	
13	ウトウ沼の沼辺植物群落	3	3	3	3	2	加美町字漆沢宿・宮崎		町指定天然			54	
14	魚取沼の沼辺植物群落	2	2	2	2	2	加美町字漆沢宿		国指定天然		○	55	
15	商人沼の沼辺植物群落	3	3	2	2	2	加美町字漆沢宿				○	134	
16	荒沢湖沼群地域の沼沢地植物群落	2	2	2	2	2	加美町滝庭		町指定天然		○	111, 113	B, E
17	前森風穴の植物群落	2	2	2	2	2	保護のため秘匿とする		県立		○	56	
18	秋保コケ風穴の植物群落	1	-	-	-	-	保護のため秘匿とする		県立				
19	高倉山風穴の植物群落	2	2	2	2	-	保護のため秘匿とする		県立				
20	三方倉山風穴の植物群落	2	2	2	2	-	保護のため秘匿とする		県立				
21	傾城森風穴の植物群落	4	4	4	4	2	保護のため秘匿とする		県立				
22	渡瀬風穴の植物群落	2	2	2	2	4	保護のため秘匿とする					69	
23	寒成山風穴の植物群落	2	2	2	2	2	保護のため秘匿とする						
24	小原黒森風穴の植物群落	4	4	-	-	-	保護のため秘匿とする						
25	磐司岩の植物群落	1	1	1	1	1	仙台市太白区		国指定名勝	国定		59	
26	鎌倉山の植物群落	1	1	1	1	1	仙台市青葉区作並		県立			122	
27	夫婦岩の植物群落	2	2	2	2	2	丸森町筆甫		県立			132	
28	雌釜・雄釜の噴気孔荒原植物群落	D	D	D	D	D	大崎市鳴子温泉鬼首		国指定天然	国定		50	
29	片山地獄地域の硫気孔荒原植物群落	4	4	4	4	3	大崎市鳴子温泉鬼首		国定			49	
30	潟沼の噴気孔荒原植物群落	D	D	D	D	4	大崎市鳴子温泉		国定			52	
31	川台山の植物群落	1	1	1	1	1	栗原市栗駒					32	
32	若畑の植物群落	3	3	3	3	3	大和町吉田		県立			38	
33	小原溪谷の植物群落	1	1	1	1	1	宮城県白石市小原		県立			66	
34	黒沢山の植物群落	3	3	2	2	2	気仙沼市上西側		県立			76, 77	
35	鱒淵観音堂の植物群落	2	2	2	2	1	登米市東和町			○	○	12	

整理番号	希少群落名	カテゴリー					所在地	指定状況					
		RDB 2026	RL 2021	RDB 2016	RL 2013	RDB 2001		記念物	自然公園	県保全地域	保護林	特定植物群落(No.)	その他
36	小黒ヶ崎の植物群落	3	3	3	3	2	大崎市岩出山・鳴子温泉				○	37	
37	平沼沼いこいの森の植物群落	2	2	2	2	2	登米市米山町					25	D, F
38	化女沼湖畔の植物群落	2	2	-	-	-	大崎市古川						A, C
39	牡鹿半島駒ヶ峰の植物群落	3	3	3	3	1	石巻市鮎川浜		国立		○	7	
40	丸田沢の植物群落	3	3	3	3	-	仙台市青葉区・泉区				○		
41	東北大学大学院理学研究科附属植物園の植物群落	3	3	3	3	3	仙台市青葉区		国指定			40	C, F
42	谷山の植物群落	1	1	1	1	1	村田町大字足立				○	60	C
43	巨理愛宕山の植物群落	3	3	3	3	-	巨理町字愛宕前・逢隈				○		
44	横山不動尊の水生植物群落	3	3	3	3	3	登米市津山町		国指定	国立			
45	猪倉堤の池沼植物群落	1	1	1	1	-	柴田町大字富沢						
46	三色吉七ツ堤の池沼植物群落	3	3	3	3	3	岩沼市三色吉						
47	明光沢の池沼植物群落	3	3	4	4	3	丸森町大内						
48	迫川河川敷の河辺植物群落	3	3	-	-	-	登米市迫町						
49	北上川の河辺植物群落	2	2	2	2	-	登米市豊里町・津山町、石巻市槻生町・成田・飯野					86	
50	伊豆沼・内沼の池沼植物群落	3	3	3	3	3	栗原市築館・若柳、登米市迫町		国指定		○	24	A, B, C
51	蕪栗沼の池沼植物群落	4	4	4	4	D	大崎市田尻蕪栗、登米市南方町					88	A, B, C
52	平沼沼の池沼植物群落	3	3	3	3	2	登米市米山町・豊里町						B, D
53	相野沼の池沼植物群落	2	2	2	2	2	涌谷町上郡					89	B
54	富士沼の池沼植物群落	3	3	3	1	1	石巻市福地・針岡						
55	加瀬沼の池沼植物群落	3	3	3	3	-	利府町加瀬、多賀城市市川、塩竈市大日向町				○		
56	仙台市赤沼・大沼・南長沼の池沼植物群落	3	3	3	3	3	仙台市宮城野区・若林区						
57	磯の溜池群の池沼植物群落	4	4	4	3	3	山元町坂元					133	
58	樽島の植物群落	1	1	1	1	1	南三陸町戸倉		国指定	国立		14	
59	八景島の植物群落	1	1	1	1	1	石巻市船越		国指定	国立		3	
60	二股島の植物群落	1	1	1	1	1	女川町江島			国立			
61	松島の植物群落	3	3	3	2	2	松島町、東松島市、利府町、塩竈市、七ヶ浜町		特別名勝	県立		26, 138	C, D
62	金華山島の植物群落	3	3	3	3	3	石巻市鮎川浜		国立			6	C
63	州崎浜池沼群の海岸植生	4	4	4	3	3	東松島市野蒜		特別名勝	県立			
64	蒲生海岸の海岸植生	4	4	4	3	3	仙台市宮城野区				○	29	B, C
65	井土浦の海岸植生	4	4	4	3	3	仙台市若林区				○	42	B, C
66	鳥の海の海岸植生	4	4	4	4	3	巨理町吉田				○		B
67	牛橋河口の海岸植生	4	4	4	3	3	山元町山寺				○		
68	赤崎海岸の砂丘植物群落	4	4	4	3	3	気仙沼市本吉町		国立				
69	長面浜の砂丘植物群落	D	D	D	4	4	石巻市長面		国立			87	
70	仙台湾岸の砂丘植物群落	4	4	4	3	3	仙台市宮城野区～山元町				○	31, 106	C

5 群落・群集 (2)干潟の底生動物群集

干潟の底生動物群集(沿岸域における底生動物群集の保全)

干潟は、その周囲にあるヨシ原やアマモ場を含めて、潮汐の影響や底質の状況によって、様々な性質の生息場所となり、それぞれに異なる底生動物が生息しています。干潟の表面にはウミナ類やカワザンショウ類などの表在性動物が棲み、底質中には内在性の動物(ゴカイ類などの環形動物、イソシジミなどの二枚貝類、アナジャコ類などの甲殻類など)が生息しています。また、コメツキガニやアシハラガニなど多くのカニ類は、冠水時には底質内に潜り、干出時には底質表面で活動します。また、アナジャコ類やカニ類が創り出した巣穴に棲み込む動物も知られています。このように、一見単純に見える干潟でも、多くの種がそれぞれの方法で使い分け、共存して暮らしています。

干潟では、潮汐に伴う海水や汽水の出入りに伴って、底生動物の幼生や成体が移動・分散します。そのため、ある干潟の個体群が消滅した場合でも、近隣の干潟から幼生が移入することによって個体群が回復する可能性があります。このため、地域の干潟群をセットとして保全することが重要といえます。

また、干潟を生息場所とする底生動物は、干潟環境によく適応しているため、干潟の生息環境の消失や劣化が死滅に結びつく可能性が高いといえます。そのため、干潟の生物の保護に当たっては、何にも増して生息場所を保全することが重要です。この場合、生息基盤である底質環境のみならず、水の動きを妨げないことや水質の保全も不可欠です。それゆえ、水の出入りの変更をもたらす地形の改変や構造物の設置には慎重でなければなりません。干潟の

宮城県の干潟

重要干潟ならびにレッドリスト種が確認された干潟、河口、砂浜、海岸、漁港

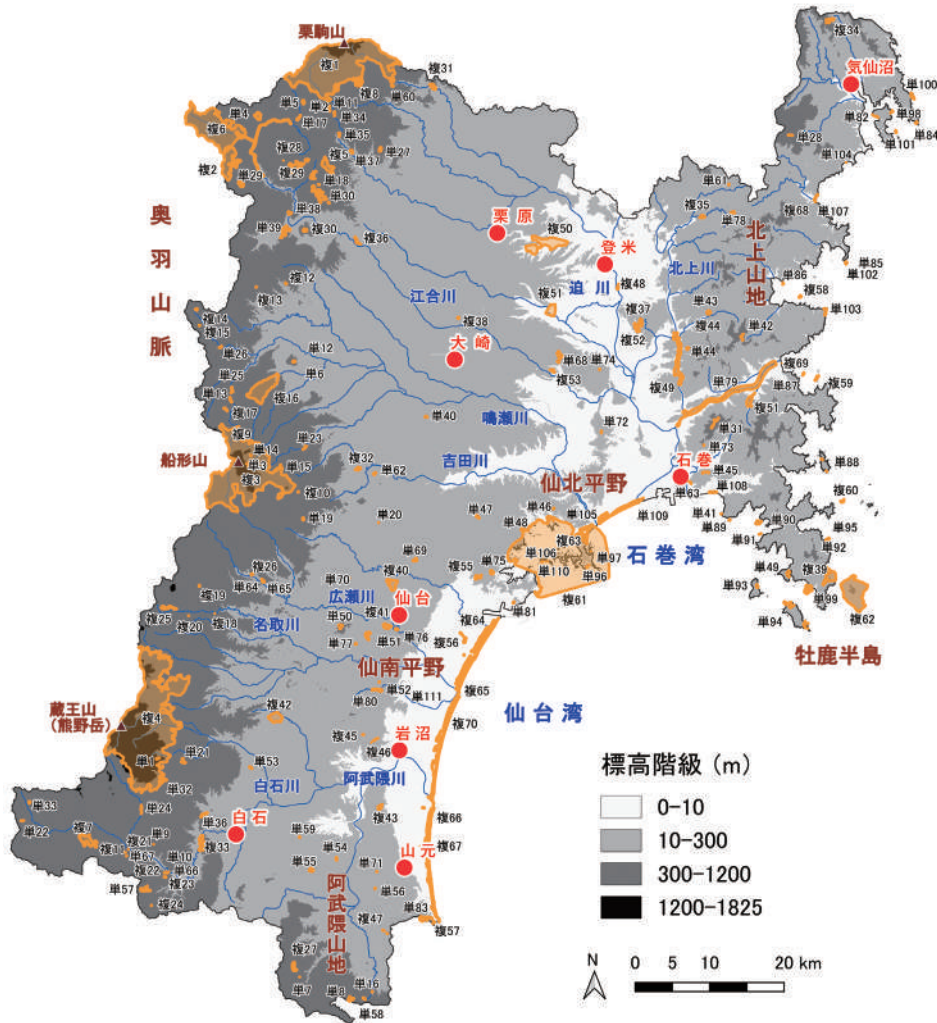
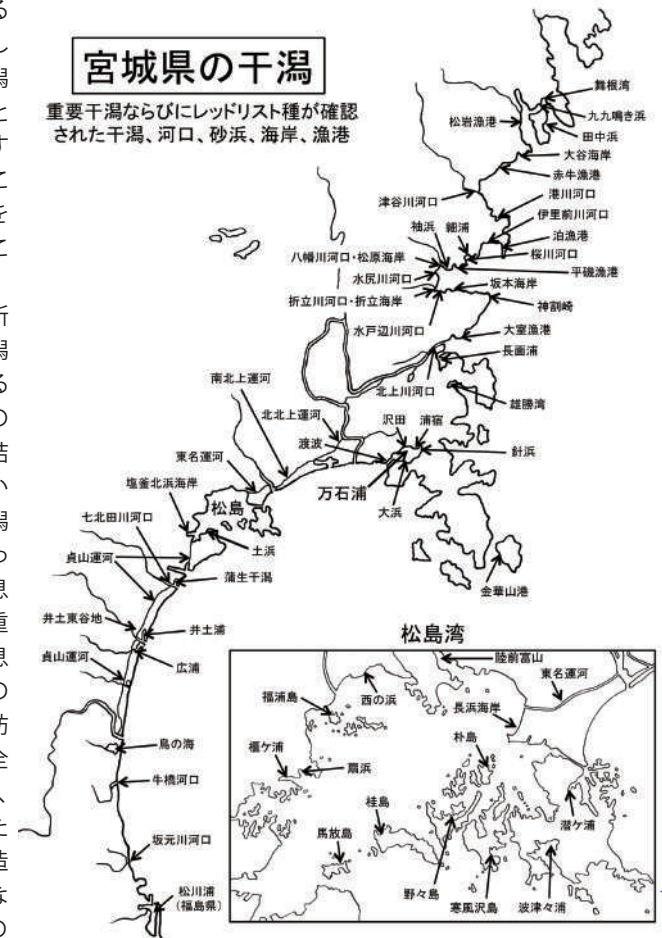


図1 宮城県の地勢概要と希少な植物群落の位置

181の希少な植物群落(名称は表1・表2の整理番号に対応;頭文字の「単」は単一群落を、「複」は群落複合をそれぞれ示す)の地理的位置を、主要な河川、山岳、都市および海拔階級とともに示した。

環境と底生動物群集が健全であることが、干潟に飛来する鳥類や上げ潮に乗って訪れる魚類にとっても必要なのです。

宮城県内に存在する、ある程度の規模を持った干潟ならびにこれまでレッドリスト種の生息が確認されている河口、砂浜、海岸、漁港は地図(宮城県の干潟)に示すとおりです。これらのうち、生物多様性に富み、生物生息場所として貴重であることが判明した重要な干潟は、写真で示した櫃ヶ浦や鳥の海など20カ所が挙げられます。

私たちは干潟から様々な恩恵を受けており、これを生態系サービスといいます(水質浄化、洪水の緩和、潮干狩り、稚魚の育成場所、環境教育の場など)。しかし、現在では、多くの場所で、埋め立てや護岸工事などのために干潟は消失の危機にさらされています。いずれの干潟も、将来にわたって保全を図っていかなければならない存在であることを強調しておきたいと思います。

宮城県の重要な干潟20カ所は以下の通りです。

- (1) 舞根川河口(舞根湾) 気仙沼市唐桑町西舞根
- (2) 津谷川河口 気仙沼市本吉町川原
- (3) 細浦 南三陸町志津川細浦
- (4) 折立海岸(旧戸倉海岸) 南三陸町戸倉折立
- (5) 雄勝湾 石巻市雄勝町雄勝
- (6) 万石浦大浜 石巻市渡波大浜
- (7) 万石浦沢田 石巻市渡波(ニュータウン)
- (8) 宮戸波津々浦 東松島市宮戸
- (9) 長浜海岸 東松島市大塚
- (10) 松島西ノ浜 松島町磯崎西ノ浜
- (11) 扇浜(双観山下) 松島町松島大沢平
- (12) 櫃ヶ浦 利府町赤沼
- (13) 浦戸桂島 塩竈市浦戸桂島
- (14) 浦戸野々島 塩竈市浦戸野々島
- (15) 土浜 七ヶ浜町代ヶ崎浜土浜
- (16) 蒲生干潟 仙台市宮城野区蒲生高松
- (17) 井土浦 仙台市若林区井土
- (18) 広浦 名取市関上/下増田
- (19) 鳥の海 亶理郡亶理町荒浜/吉田
- (20) 坂元川河口 亶理郡山元町坂元



櫃ヶ浦：松島湾の奥にある入り江状の干潟



鳥の海：宮城県では最大規模の潟湖干潟

III 宮城県レッドリスト(カテゴリー順)

1 植物【藓苔類】		ヤリノホゴケ(キヌゴケ科) -	
和名(科名)	環境省2025	準絶滅危惧種 (NT)	
絶滅危惧I類 (CR+EN)		コウライイチイゴケ(キアラハゴケ科) -	
イボイボツノゴケ(ツノゴケモドキ科)	-	情報不足 (DD)	
コマチゴケ(コマチゴケ科)	-	ユキミイチョウゴケ(ツボミゴケ科) CR	
ウキウキゴケ(ウキゴケ科)	-	ヒメキンシゴケ(キンシゴケ科) -	
イチョウウキゴケ(ウキゴケ科)	NT	カサゴケ(ハリガネゴケ科) -	
エゾヤハズゴケ(チヂレヤハズゴケ科)	-	オオカギトゴケ(キヌゴケ科) EN	
シフネルゴケ(ヤハネゴケ科)	-	ヒヨクゴケ(イワダレゴケ科) -	
エゾヒメヤハネゴケ(カサナリゴケ科)	-	フクラゴケ(ナワゴケ)(ナワゴケ科) -	
ヨコグラハネゴケ(ハネゴケ科)	-		
シゲリゴケ(クサリゴケ科)	-	2 植物【維管束植物】	
ヨウジョウゴケ(クサリゴケ科)	NT	和名(科名) 環境省2025	
クラマゴケモドキ(クラマゴケモドキ科)	-	絶滅 (EX)	
フナガタミズゴケ(ミズゴケ科)	-	ミズスギ(ヒカゲノカズラ科) -	
コアナミズゴケ(ミズゴケ科)	-	カタヒバ(イワヒバ科) -	
オオミズゴケ(ミズゴケ科)	NT	サイゴクベニシダ(オシダ科) -	
シタミズゴケ(ミズゴケ科)	-	ナガオノキシノブ(ウラボシ科) -	
クマノゴケ(イクビゴケ科)	DD	オニバス(スイレン科) VU	
ヤマトハクチョウゴケ(チヂレゴケ科)	NT	コキンバイザサ(キンバイザサ科) -	
チャボナガダイゴケ(ブルッフゴケ科)	-	ウスイロスゲ(カヤツリグサ科) -	
オオカサゴケ(ハリガネゴケ科)	-	タチスミレ(スミレ科) VU	
カサゴケモドキ(ハリガネゴケ科)	NT	ハナハタザオ(アブラナ科) CR	
テツカチョウチンゴケ(アズミチョウチンゴケ)(チョウチンゴケ科)	DD	マツグミ(オオバヤドリギ科) -	
コシノヤハネゴケ(カワゴケ科)	NT	アッケシソウ(ヒコ科) VU	
クロカワゴケ(カワゴケ科)	NT	マメダオシ(ヒルガオ科) EN	
カワゴケ(カワゴケ科)	NT	ヒシモドキ(オオバコ科) EN	
ササオカゴケ(アオモリカギハイゴケ)(ヤナギゴケ科)	NT	ムシャリンドウ(シソ科) VU	
コハイヒモゴケ(ハイヒモゴケ科)	-	ミズトラノオ(シソ科) VU	
キヨスミトゴケ(ハイヒモゴケ科)	-	フサタヌキモ(タヌキモ科) VU	
ヒムロゴケ(ヒムロゴケ科)	-	野生絶滅 (EW)	
絶滅危惧II類 (VU)		デンジソウ(デンジソウ科) NT	
ナカジマヒメクサリゴケ(クサリゴケ科)	-	絶滅危惧I類 (CR+EN)	
ヤマナカヨウジョウゴケ(クサリゴケ科)	-	チシマヒカゲノカズラ(ヒカゲノカズラ科) EN	
ナンヨウサンカクゴケ(クサリゴケ科)	-	スギラン(ヒカゲノカズラ科) VU	
マルバヒメクサリゴケ(クサリゴケ科)	-	ミズニラモドキ(ミズニラ科) VU	
オキナスギゴケ(スギゴケ科)	DD	ヒメハナワラビ(ハナヤスリ科) VU	
クマノチョウジゴケ(キセルゴケ科)	-	トネハナヤスリ(ハナヤスリ科) NT	
キヌシツボゴケモドキ(チヂレゴケ科)	DD	マツバラ(マツバラ科) NT	
		アオホラゴケ(コケシノブ科) -	
		ウラジロ(ウラジロ科) -	

オオキジノオ(キジノオシダ科)	-	ツツイトモ(ヒルムシロ科)	VU
ホラシノブ(ホンゴウシダ科)	-	ササバモ(ヒルムシロ科)	-
コバノイシカグマ(コバノイシカグマ科)	-	イトクズモ(ヒルムシロ科)	VU
ヒメミズワラビ(イノモトソウ科)	-	ホンゴウソウ(ホンゴウソウ科)	NT
リシリシノブ(イノモトソウ科)	NT	ヒメサユリ(ユリ科)	NT
タチシノブ(イノモトソウ科)	-	コアニチドリ(ラン科)	VU
マツザカシダ(イノモトソウ科)	-	ムギラン(ラン科)	NT
オオバノハチジョウシダ(イノモトソウ科)	-	キンセイラン(ラン科)	VU
ウスヒメワラビ(ナヨシダ科)	-	ナツエビネ(ラン科)	VU
コハシゴシダ(ヒメシダ科)	-	サルメンエビネ(ラン科)	VU
オクヤマワラビ(メシダ科)	-	クゲヌマラン(ラン科)	VU
トガリバイヌワラビ(メシダ科)	-	トケンラン(ラン科)	VU
イワイヌワラビ(メシダ科)	-	クマガイソウ(ラン科)	VU
ヒロハイヌワラビ(メシダ科)	-	アツモリソウ(ラン科)	VU
コウライイヌワラビ(メシダ科)	VU	イチヨウラン(ラン科)	-
オニカナワラビ(オシダ科)	-	セッコク(ラン科)	-
ハカタシダ(オシダ科)	-	アオキラン(ラン科)	EN
ミヤコヤブソテツ(オシダ科)	-	カモメラン(ラン科)	NT
サクライカグマ(オシダ科)	-	マツラン(ベニカヤラン)(ラン科)	VU
ギフベニシダ(オシダ科)	-	モミラン(ラン科)	VU
イワカゲワラビ(オシダ科)	VU	シロテンマ(ラン科)	EN
イワオオイタチシダ(オシダ科)	-	クロヤツシロラン(ラン科)	-
カラマツ(マツ科)	-	ベニシュスラン(ラン科)	-
チョウセンゴミシ(マツブサ科)	-	ヒロハツリシュスラン(ラン科)	EN
フタバアオイ(ウマノスズクサ科)	-	ヒメミヤマウズラ(ラン科)	-
ヤブニッケイ(クスノキ科)	-	テガタチドリ(ラン科)	-
ヒメカイウ(サトイモ科)	NT	オオミズトンボ(ラン科)	EN
ナベクラザゼンソウ(サトイモ科)	VU	ミズトンボ(ラン科)	NT
ザゼンソウ(サトイモ科)	-	ヒナチドリ(ラン科)	VU
チャボゼキシヨウ(チシマゼキシヨウ科)	-	ミヤマモジズリ(ラン科)	-
マルバオモダカ(オモダカ科)	VU	ウチヨウラン(ラン科)	NT
スブタ(トチカガミ科)	VU	エンシュウムヨウラン(ラン科)	-
ムサシモ(トチカガミ科)	EN	ギボウシラン(ラン科)	VU
イバラモ(トチカガミ科)	-	フガクスズムシソウ(ラン科)	VU
トリゲモ(トチカガミ科)	VU	アキタスズムシソウ(ラン科)	-
イトイバラモ(トチカガミ科)	VU	セイタカスズムシソウ(ラン科)	-
セキシヨウモ(トチカガミ科)	-	スズムシソウ(ラン科)	-
シバナ(シバナ科)	NT	コフタバラン(ラン科)	-
オオシバナ(シバナ科)	NT	タンザワサカネラン(ラン科)	EN
スゲアマモ(アマモ科)	NT	サカネラン(ラン科)	VU
ホソバヒルムシロ(ヒルムシロ科)	VU	ムカゴサイシン(ラン科)	NT
エゾヤナギモ(ヒルムシロ科)	-	ヨウラクラン(ラン科)	-
ヒロハノエビモ(ヒルムシロ科)	-	サギソウ(ラン科)	NT

タカネトンボ(ラン科)	VU	ノカラマツ(キンポウゲ科)	VU
イイヌママカゴ(ラン科)	EN	ザリコミ(スグリ科)	-
マイサギソウ(ラン科)	-	シコタンソウ(ユキノシタ科)	-
ガッサンチドリ(ラン科)	EN	エゾノチャルメルソウ(ユキノシタ科)	-
ヤマトキソウ(ラン科)	-	ベンケイソウ(ベンケイソウ科)	-
ショウキラン(ラン科)	-	ジャケツイバラ(マメ科)	-
ヒオウギ(アヤメ科)	-	タヌキマメ(マメ科)	-
ステゴビル(ヒガンバナ科)	VU	ノアズキ(マメ科)	-
ギョウジャニンニク(ヒガンバナ科)	-	センダイハギ(マメ科)	-
ヒメマイヅルソウ(クサスギカズラ科)	-	シャジクソウ(マメ科)	-
ヤブミョウガ(ツククサ科)	-	ヨコグラノキ(クロウメモドキ科)	-
オオミクリ(ガマ科)	VU	タチゲヒカゲミズ(イラクサ科)	VU
エゾミクリ(ガマ科)	-	エゾツルキンバイ(バラ科)	-
ヤマトミクリ(ガマ科)	NT	ミヤマザクラ(バラ科)	-
タマミクリ(ホソバタマミクリ)(ガマ科)	NT	クサボケ(バラ科)	-
ハマイ(イグサ科)	-	キンロバイ(バラ科)	VU
サナギスゲ(カヤツリグサ科)	-	カラフトダイコンソウ(バラ科)	-
ハコネイトスゲ(カヤツリグサ科)	-	オオタカネバラ(バラ科)	-
ハタベスゲ(カヤツリグサ科)	EN	エゾキイチゴ(ミヤマウラジロイチゴ)(バラ科)	-
ヒエスゲ(カヤツリグサ科)	-	エゾノシロバナシモツケ(バラ科)	-
タチスゲ(カヤツリグサ科)	-	センダイタイゲキ(トウダイグサ科)	NT
カンスゲ(カヤツリグサ科)	-	ヒゴスミレ(スミレ科)	-
マメスゲ(カヤツリグサ科)	-	シロスミレ(スミレ科)	-
ユキグニハリスゲ(カヤツリグサ科)	-	マツバニンジン(アマ科)	CR
チシママツバイ(カヤツリグサ科)	VU	タカネグンナイフウロ(フウロソウ科)	-
チャボイ(カヤツリグサ科)	VU	ヒメミソハギ(ミソハギ科)	-
トネテンツキ(カヤツリグサ科)	VU	ヒメビシ(ミソハギ科)	VU
ヒロハヌマガヤ(イネ科)	-	ウスゲヤナギラン(アカバナ科)	-
ウシクサ(イネ科)	-	ウスギモクゲンジ(ムクロジ科)	-
アキウネマガリ(イネ科タケ亜科)	-	ナニワズ(ジンチョウゲ科)	-
ツルケマン(ケシ科)	EN	コイヌガラシ(アブラナ科)	NT
オサバグサ(ケシ科)	-	ハマサジ(イソマツ科)	NT
トガクシソウ(メギ科)	NT	クリンユキフデ(タデ科)	-
イチリンソウ(キンポウゲ科)	-	エゾノミズタデ(タデ科)	-
ミヤマオダマキ(キンポウゲ科)	-	シラカワタデ(タデ科)	-
ハンショウヅル(キンポウゲ科)	-	マダイオウ(タデ科)	-
ミツバノバイカオウレン(キンポウゲ科)	-	コモウセンゴケ(モウセンゴケ科)	-
アズマシロカネソウ(キンポウゲ科)	-	ハマハコベ(ナデシコ科)	-
ヒメキンポウゲ(キンポウゲ科)	VU	ヒゲネワチガイソウ(ナデシコ科)	-
オキナグサ(キンポウゲ科)	NT	シラオイハコベ(エゾフスマ)(ナデシコ科)	-
ヒキノカサ(キンポウゲ科)	VU	イトハコベ(ナデシコ科)	CR
ヒメバイカモ(キンポウゲ科)	EN	ウミミドリ(サクラソウ科)	-
ヒメウズ(キンポウゲ科)	-	サクラソウ(サクラソウ科)	NT

イワヒゲ(ツツジ科)	-	エキサイゼリ(セリ科)	NT
ヒメウスノキ(ツツジ科)	-	ミシマサイコ(セリ科)	VU
ハナムグラ(アカネ科)	VU	エゾヒョウタンボク(スイカズラ科)	VU
アカネムグラ(アカネ科)	-	クロブシヒョウタンボク(スイカズラ科)	EN
ホソバノツルリンドウ(リンドウ科)	VU	絶滅危惧II類(VU)	
ヒメナエ(マチン科)	VU	ヤマハナワラビ(ハナヤスリ科)	-
アイナエ(マチン科)	-	オニゼンマイ(ゼンマイ科)	-
チョウジソウ(キョウチクトウ科)	NT	フモトシダ(コバノイシカグマ科)	-
サワリソウ(ムラサキ科)	-	ウサギシダ(ナヨシダ科)	-
ムラサキ(ムラサキ科)	EN	コバノヒノキシダ(チャセンシダ科)	-
ハマベンケイソウ(ムラサキ科)	-	ハシゴシダ(ヒメシダ科)	-
ツルカメバソウ(ムラサキ科)	EN	コモチシダ(シシガシラ科)	-
イワタバコ(イワタバコ科)	-	ハコネシケチシダ(メシダ科)	-
アブノメ(オオバコ科)	-	セイタカシケシダ(メシダ科)	-
エゾリトラノオ(オオバコ科)	-	ヒカゲワラビ(メシダ科)	-
カイジンドウ(シソ科)	VU	オニヒカゲワラビ(メシダ科)	-
ツルカコソウ(シソ科)	VU	オクヤマシダ(オシダ科)	-
ゴマノハグサ(ゴマノハグサ科)	NT	ニオイシダ(オシダ科)	-
タカクマヒキオコシ(シソ科)	-	キヨスミヒメワラビ(オシダ科)	-
キセワタ(シソ科)	VU	イノデモドキ(オシダ科)	-
ヒメハッカ(シソ科)	NT	ヒメサジラン(ウラボシ科)	-
ミソガワソウ(シソ科)	-	エゾデンダ(ウラボシ科)	-
ミゾコウジュ(シソ科)	NT	イワオモダカ(ウラボシ科)	-
オカタツナミソウ(シソ科)	-	ハンゲショウ(ドクダミ科)	-
イヌニガクサ(シソ科)	CR	オクエゾサイシン(ウマノスズクサ科)	-
エゾニガクサ(シソ科)	EN	マイヅルテンナンショウ(サトイモ科)	NT
カリガネソウ(シソ科)	-	チシマゼキショウ(チシマゼキショウ科)	-
ハマゴウ(シソ科)	-	アギナシ(オモダカ科)	NT
ハマウツボ(ハマウツボ科)	VU	ヤナギスプタ(トチカガミ科)	-
ミミカキグサ(タヌキモ科)	-	トチカガミ(トチカガミ科)	NT
ホザキノミミカキグサ(タヌキモ科)	-	サガミトリゲモ(ヒロハトリゲモ)	NT
ヒメタヌキモ(タヌキモ科)	NT	(トチカガミ科)	
パアソブ(キキョウ科)	VU	ホッサモ(トチカガミ科)	-
ムラサキセンブリ(キキョウ科)	NT	オオトリゲモ(トチカガミ科)	-
ガガブタ(ミツガシワ科)	NT	ミズオオバコ(トチカガミ科)	NT
ウゴアザミ(キク科)	-	コウガイモ(トチカガミ科)	-
コウヤボウキ(キク科)	-	コバノヒルムシロ(ヒルムシロ科)	VU
アキノハハコグサ(キク科)	EN	エゾノヒルムシロ(ヒルムシロ科)	-
ミヤコアザミ(キク科)	-	センニンモ(ヒルムシロ科)	-
ヒメヒゴタイ(キク科)	VU	ホソバミズヒキモ(ヒルムシロ科)	-
キクアザミ(キク科)	-	ミズヒキモ(ヒルムシロ科)	-
アオヤギバナ(キク科)	-	リュウノヒゲモ(ヒルムシロ科)	NT
オカオグルマ(キク科)	-	カワツルモ(カワツルモ科)	NT

クマバツクバネソウ(シュロソウ科)	-	スジヌマハリイ(カヤツリグサ科)	VU
マルバサンキライ(サルトリイバラ科)	-	コツブヌマハリイ(カヤツリグサ科)	VU
アマナ(ユリ科)	-	ナガボテンツキ(カヤツリグサ科)	-
ミヤマスカシユリ(ユリ科)	VU	ミチノクホタルイ(カヤツリグサ科)	-
エビネ(ラン科)	NT	ノグサ(カヤツリグサ科)	-
キンラン(ラン科)	NT	コシンジュガヤ(カヤツリグサ科)	-
ヒメノヤガラ(ラン科)	VU	ヒナガリヤス(イネ科)	-
コアツモリソウ(ラン科)	NT	フサガヤ(イネ科)	-
エゾスズラン(アオスズラン)(ラン科)	-	ヒナザサ(イネ科)	NT
ハマカキラン(ラン科)	VU	ミズタカモジグサ(イネ科)	VU
ムカゴソウ(ラン科)	VU	ミヤマドジョウツナギ(イネ科)	-
ハクウンラン(ラン科)	-	ミチシバ(イネ科)	-
ノビネチドリ(ラン科)	-	タチイチゴツナギ(イネ科)	EN
アオフタバラン(ラン科)	-	ハマヒエガエリ(イネ科)	-
ミズチドリ(ラン科)	-	イヌアワ(イネ科)	-
ツレサギソウ(ラン科)	-	ハイドジョウツナギ(イネ科)	-
ヤマサギソウ(ラン科)	VU	オモエザサ(イネ科タケ亜科)	-
タカネサギソウ(ラン科)	-	キケマン(ケシ科)	-
ノヤマトンボ(オオバノトンボソウ)(ラン科)	-	ワガトリカブト(キンポウゲ科)	VU
トクソウ(ラン科)	NT	フクジュソウ(キンポウゲ科)	-
カヤラン(ラン科)	-	カザグルマ(キンポウゲ科)	NT
カキツバタ(アヤメ科)	NT	コキツネノボタン(キンポウゲ科)	VU
ヒオウギアヤメ(アヤメ科)	-	ツルキツネノボタン(キンポウゲ科)	-
ヤマラッキョウ(ヒガンバナ科)	-	マンセンカラマツ(キンポウゲ科)	EN
スズラン(クサスギカズラ科)	-	ヤマシャクヤク(ボタン科)	NT
ヒメミクリ(ガマ科)	VU	ベニバナヤマシャクヤク(ボタン科)	VU
アズマホシクサ(ミヤマヒナホシクサ)	VU	ヤシャビシャク(スグリ科)	NT
(ホシクサ科)		トガスグリ(スグリ科)	-
ヒメコウガイゼキショウ(イグサ科)	-	アズマツメクサ(ベンケイソウ科)	NT
イセウキヤガラ(カヤツリグサ科)	-	ミヤママンネングサ(ベンケイソウ科)	-
タテヤマスケ(カヤツリグサ科)	-	オグラノフサモ(アリノトウグサ科)	VU
ジョウロウスゲ(カヤツリグサ科)	VU	タチモ(アリノトウグサ科)	NT
ヌマアゼスケ(カヤツリグサ科)	VU	モメンヅル(マメ科)	-
イトキンスゲ(カヤツリグサ科)	-	レンリソウ(マメ科)	-
ヤマクボスケ(カヤツリグサ科)	NT	オオバグミ(マルバグミ)(オオバグミ)	-
クジュウツリスゲ(カヤツリグサ科)	NT	(グミ科)	
ムジナスゲ(カヤツリグサ科)	-	ホナガクマヤナギ(クロウメモドキ科)	-
ヌマクボスケ(シラカウスゲ)	VU	マルバヤブマオ(イラクサ科)	-
(カヤツリグサ科)		トキホコリ(イラクサ科)	NT
ナガエスケ(カヤツリグサ科)	-	カワラサイコ(バラ科)	-
カミカウスゲ(カヤツリグサ科)	-	エチゴツルキジムシロ(バラ科)	-
カンエンガヤツリ(カヤツリグサ科)	VU	シモキタイチゴ(バラ科)	-
タチヒメクグ(マメクグ)(カヤツリグサ科)	-	ヒメゴヨウイチゴ(バラ科)	-

キビノナワシロイチゴ (キビナワシロイチゴ)(バラ科)	-	マルバノサウトウガラシ(オオバコ科)	NT
ナガボノワレモコウ (ナガボノシロワレモコウ)(バラ科)	-	ヒヨクソウ(オオバコ科)	-
サクラバハノキ(カバノキ科)	NT	イヌノフグリ(オオバコ科)	NT
マルミノウルシ(トウダイグサ科)	NT	ミチノククワガタ(オオバコ科)	-
ユビソヤナギ(ヤナギ科)	NT	ヤマジソ(シソ科)	NT
シライヤナギ(ヤナギ科)	-	テイネニガクサ(シソ科)	NT
キバナノコマノツメ(スミレ科)	-	ナンパンギセル(ハマウツボ科)	-
フモトスミレ(スミレ科)	-	ミチノクコゴメグサ(ハマウツボ科)	-
シハイスミレ(スミレ科)	-	シコクママコナ(ハマウツボ科)	-
アゼオトギリ(オトギリソウ科)	EN	ミヤマシオガマ(ハマウツボ科)	-
オシマオトギリ(オトギリソウ科)	-	ヨツバシオガマ(ハマウツボ科)	-
ミズマツバ(ミソハギ科)	NT	キヨスミウツボ(ハマウツボ科)	-
アシボソアカバナ(アカバナ科)	-	オオタヌキモ(タヌキモ科)	NT
ホソバアカバナ(アカバナ科)	-	ハグロソウ(キツネノマゴ科)	-
ナンブコハモミジ(ムクロジ科)	-	クマツヅラ(クマツヅラ科)	-
ミズタガラシ(アブラナ科)	-	オクノフウリンウメモドキ(モチノキ科)	-
ハクセンナズナ(アブラナ科)	-	ミヨウギシャジン(キキョウ科)	-
ハタザオ(アブラナ科)	-	チシマギキョウ(キキョウ科)	-
ミヤマツチトリモチ(ツチトリモチ科)	VU	ヒメシロアサザ(ミツガシワ科)	VU
ホザキヤドリギ(オオバヤドリギ科)	-	アサザ(ミツガシワ科)	NT
ヒメタデ(タデ科)	DD	エゾノコギリソウ(キク科)	-
ナガバノウナギツカミ(タデ科)	NT	シロヨモギ(キク科)	-
タカネナデシコ(ナデシコ科)	-	エゾノタウコギ(キク科)	-
ワダソウ(ナデシコ科)	-	ヒメガンクビソウ(キク科)	-
イワアカザ(ヒユ科)	CR	リュウノウギク(キク科)	-
クサアジサイ(アジサイ科)	-	ナトリアザミ(キク科)	-
ヤナギトラノオ(サクラソウ科)	-	アズマギク(キク科)	-
クリンソウ(サクラソウ科)	-	ホソバオグルマ(キク科)	VU
ハイハマボス(サクラソウ科)	NT	タカサゴソウ(キク科)	VU
ナツツバキ(ツバキ科)	-	カワラニガナ(キク科)	NT
オオイワカガミ(イワウメ科)	-	コオニタビラコ(キク科)	-
ヒメハナヒリノキ(ツツジ科)	-	ミチノクヤマタバコ(キク科)	-
カラフトイチヤクソウ(ツツジ科)	VU	カシワバハグマ(キク科)	-
ツルコケモモ(ツツジ科)	-	オナモミ(キク科)	VU
クロマメノキ(ツツジ科)	-	イワセントウソウ(セリ科)	-
コケリンドウ(リンドウ科)	-	タニミツバ(セリ科)	-
フナバラソウ(キョウチクトウ科)	NT	ヌマゼリ(セリ科)	NT
コカモメツル(キョウチクトウ科)	-	ニッコウヒョウタンボク(スイカズラ科)	-
スズサイコ(キョウチクトウ科)	NT	マツムシソウ(スイカズラ科)	-
ヤマホロシ(ナス科)	-	準絶滅危惧種(NT)	
スナビキソウ(ムラサキ科)	-	ミズニラ(ミズニラ科)	NT
		ヤシャゼンマイ(ゼンマイ科)	-
		ホソバコケシノブ(コケシノブ科)	-

サンショウモ(サンショウモ科)	NT	ヒゲシバ(イネ科)	-
イノモトソウ(イノモトソウ科)	-	ヤマキタダケ(ヒメスズダケ) (イネ科タケ亜科)	-
ホソバヌワラビ(メシダ科)	-	ナガミノツルケマン(ケシ科)	NT
ヤリホノシケシダ(ヤブシダ)(メシダ科)	-	コマクサ(ケシ科)	-
オオイタチシダ(オシダ科)	-	ヤマブキソウ(ケシ科)	-
リョウトウイタチシダ(オシダ科)	-	センウズモドキ(キンポウゲ科)	VU
マメツタ(ウラボシ科)	-	レンゲシヨウマ(キンポウゲ科)	-
ウマノスズクサ(ウマノスズクサ科)	-	トウゴクサバノオ(キンポウゲ科)	-
ミチノクサイシン(ウマノスズクサ科)	VU	シラネアオイ(キンポウゲ科)	-
サジオモダカ(オモダカ科)	-	スハマソウ(キンポウゲ科)	-
ウリカワ(オモダカ科)	-	パイカモ(キンポウゲ科)	-
イトトリゲモ(トチカガミ科)	NT	イワカラマツ(キンポウゲ科)	VU
コアマモ(アマモ科)	-	タコノアシ(タコノアシ科)	NT
イトモ(ヒルムシロ科)	NT	イワオウギ(マメ科)	-
エゾノミヤマエンレイソウ(シュロソウ科)	-	マルバヌスビトハギ(マメ科)	-
ユウシュンラン(ラン科)	NT	ケヤブハギ(マメ科)	-
サワラン(ラン科)	-	エゾノレンリソウ(マメ科)	-
ジガバチソウ(ラン科)	-	イヌハギ(マメ科)	NT
ミヤマトキソウ(ラン科)	-	マキエハギ(マメ科)	-
ヒトツボクロ(ラン科)	-	トクリマメ(オオバタンキリマメ)(マメ科)	-
ヒメシャガ(アヤメ科)	NT	コケミズ(イラクサ科)	-
アヤメ(アヤメ科)	-	チョウセンキンミズヒキ(バラ科)	VU
ヤマトユキザサ(クサスギカズラ科)	-	シモツケソウ (変種アカバナシモツケソウを含む)(バラ科)	-
ヒメイズイ(クサスギカズラ科)	-	ノウゴウイチゴ(バラ科)	-
ミズアオイ(ミズアオイ科)	NT	ヒロハノカワラサイコ(バラ科)	VU
ナガエミクリ(ガマ科)	NT	ミチノクナシ(イワテヤマナシ)(バラ科)	EN
ミクリ(ガマ科)	NT	タカネバラ(バラ科)	-
ホシクサ(ホシクサ科)	-	ハマナス(バラ科)	-
エゾホシクサ(ホシクサ科)	-	サナギイチゴ(バラ科)	NT
スナジスゲ(カヤツリグサ科)	-	ネコシデ(カバノキ科)	-
キンチャクスゲ(カヤツリグサ科)	-	イワウメツル(ニシキギ科)	-
ツルスゲ(カヤツリグサ科)	-	ノウルシ(トウダイグサ科)	NT
オオクグ(カヤツリグサ科)	NT	トカチヤナギ(オオバヤナギ)(ヤナギ科)	-
ツルカミカワスゲ(カヤツリグサ科)	-	エゾノタチツボスミレ(スミレ科)	-
オオシロガヤツリ(カヤツリグサ科)	-	コフウロ(フウロソウ科)	-
ウキミガヤツリ(カヤツリグサ科)	-	カラフトアカバナ(アカバナ科)	-
サギスゲ(カヤツリグサ科)	-	フユザンショウ(ミカン科)	-
タカネクロスゲ(カヤツリグサ科)	VU	カラスノゴマ(アオイ科)	-
ヒメコヌカグサ(イネ科)	NT	ハマハタザオ(アブラナ科)	-
ウキガヤ(イネ科)	-	エゾハタザオ(アブラナ科)	-
カラフトドジョウツナギ(イネ科)	-	オニシバリ(ジンチョウゲ科)	-
キダチノネズミガヤ(イネ科)	-		
アイアシ(イネ科)	-		

オオユリワサビ(アブラナ科)	-	ムラサキミカキグサ(タヌキモ科)	NT
オヤマソバ(タデ科)	-	ソヨゴ(モチノキ科)	-
アブクマトラノオ(タデ科)	-	キキョウ(キキョウ科)	NT
エゾイブキトラノオ(タデ科)	-	カワラハハコ(キク科)	-
ムカゴトラノオ(タデ科)	-	シュウブンソウ(キク科)	-
ヤナギヌカボ(タデ科)	NT	イワインチン(キク科)	-
サデクサ(タデ科)	-	キクタニギク(キク科)	NT
ヌカボタデ(タデ科)	VU	モリアザミ(キク科)	-
ホソバイヌタデ(タデ科)	NT	リクゼンアザミ(キク科)	-
ノダイオウ(タデ科)	VU	ナンブタカネアザミ(キク科)	-
タチハコベ(ナデシコ科)	VU	キタカミアザミ(キク科)	-
ナンブワチガイソウ(ナデシコ科)	VU	マルモリアザミ(キク科)	-
ハマアカザ(ヒユ科)	-	タカサブロウ(キク科)	-
マツナ(ヒユ科)	-	フジバカマ(キク科)	NT
ヤマツツナ(ヒユ科)	-	タカネニガナ(キク科)	-
ヤマアジサイ(アジサイ科)	-	ノニガナ(キク科)	-
タマアジサイ(アジサイ科)	-	オオニガナ(キク科)	-
ユキワリコザクラ(サクラソウ科)	-	ムラサキニガナ(キク科)	-
イワウメ(イワウメ科)	-	フボウトウヒレン(キク科)	-
ヒメシャクナゲ(ツツジ科)	-	アブクマトウヒレン(キク科)	-
ウスユキハナヒリノキ(ツツジ科)	-	ハナビゼリ(セリ科)	-
イトツツジ(ツツジ科)	-	ホタルサイコ(セリ科)	-
ツガザクラ(ツツジ科)	-	セリモドキ(セリ科)	-
コバノイチヤクソウ(ツツジ科)	-	ハナウド(セリ科)	-
マルバウスゴ(ツツジ科)	-	オオカサモチ(セリ科)	-
オオキヌタソウ(アカネ科)	-	レンブクソウ(ガマズミ科)	-
ハナイカリ(リンドウ科)	-	クロミノウグイスカグラ(スイカズラ科)	-
イヌセンブリ(リンドウ科)	NT	情報不足(DD)	
テングノコツチ(リンドウ科)	NT	スガモ(アマモ科)	-
ハダカホオズキ(ナス科)	-	オオアマモ(アマモ科)	VU
ルリソウ(ムラサキ科)	-	タチアマモ(アマモ科)	VU
オオアブノメ(オオバコ科)	VU	オオヤマオダマキ(キンポウゲ科)	-
クワガタソウ(オオバコ科)	-	ツツラフジ(ツツラフジ科)	-
カワヂシャ(オオバコ科)	NT	ツメレンゲ(ベンケイソウ科)	NT
ハマヒナノウスツボ(ゴマノハグサ科)	NT	ヒナノウスツボ(ゴマノハグサ科)	-
スズメノトウガラシ(アゼナ科)	-	要注目種	
シラゲヒメジソ(シソ科)	-	シケチシダ(メシダ科)	-
アキノタムラソウ(シソ科)	-	ナンゴクナライシダ(オシダ科)	-
シソバツナミ(イガタツナミ)(シソ科)	-	ナンタイシダ(オシダ科)	-
ナミキソウ(シソ科)	-	ヒメフタバラン(ラン科)	-
トモエシオガマ(ハマウツボ科)	-	ノゲヌカスゲ(カヤツリグサ科)	-
ムシトリスミレ(タヌキモ科)	-	カリヤス(イネ科)	-
イヌタヌキモ(タヌキモ科)	NT	タチドジョウツナギ(イネ科)	-

フサザクラ(フサザクラ科)	-
ムカゴネコノメソウ(ユキノシタ科)	NT
エチゴキジムシロ(バラ科)	-
シャリンバイ(バラ科)	-
アラカシ(ブナ科)	-
イヨカズラ(キョウチクトウ科)	-
ヤマウツボ(変種ケヤマウツボを含む)	-
(ハマウツボ科)	-
モチノキ(モチノキ科)	-
カラフトニンジン(セリ科)	-

3 哺乳類

和名(科名)	環境省2020
絶滅(EX)	
オオカミ(亜種ニホンオオカミ)(イヌ科)	EX
ニホンカワウソ(イタチ科)	EX
絶滅危惧I類(CR+EN)	
ノレンコウモリ(ヒナコウモリ科)	VU
モリアブラコウモリ(ヒナコウモリ科)	VU
絶滅危惧II類(VU)	
カグヤコウモリ(ヒナコウモリ科)	-
ヒメホオヒゲコウモリ(ヒナコウモリ科)	-
クロホオヒゲコウモリ(ヒナコウモリ科)	VU
ヤマコウモリ(ヒナコウモリ科)	VU
準絶滅危惧種(NT)	
ヤマネ(ヤマネ科)	-
カワネズミ(トガリネズミ科)	-
ミズラモグラ(モグラ科)	NT
テングコウモリ(ヒナコウモリ科)	-
ニホンウサギコウモリ(ヒナコウモリ科)	-
オコジョ(イタチ科)	NT
情報不足(DD)	
シントウトガリネズミ(トガリネズミ科)	-
チチブコウモリ(ヒナコウモリ科)	LP
トド(アシカ科)	NT
ラッコ(イタチ科)	CR
コクヅラ(コクヅラ科)	評価対象外
ネズミイルカ(ネズミイルカ科)	評価対象外
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	
ニホンザル(金華山島のニホンザル)(オナガザル科)	LP
ヒナコウモリ(東松島市のヒナコウモリ)(ヒナコウモリ科)	-

コビレゴンドウ(タツバナガ)(マイルカ科)	評価対象外
スナメリ(仙台湾-東京湾系群)(ネズミイルカ科)	評価対象外
要注目種	
カヤネズミ(ネズミ科)	-
ニホンカモシカ(ウシ科)	-

4 鳥類

和名(科名)	環境省2020
絶滅危惧I類(CR+EN)	
ウズラ(キジ科)	VU
ヒクイナ(クイナ科)	NT
ヘラシギ(シギ科)	CR
ウトウ(ウミスズメ科)	-
クロコシジロウミツバメ(ウミツバメ科)	CR
オオヨシゴイ(サギ科)	CR
イヌワシ(タカ科)	EN
チゴモズ(モズ科)	CR
アカモズ(モズ科)	EN
コシアカツバメ(ツバメ科)	-
イワヒバリ(イワヒバリ科)	-
絶滅危惧II類(VU)	
コクガン(カモ科)	VU
亜種ヒシクイ(カモ科)	VU
カリガネ(カモ科)	EN
ヨタカ(ヨタカ科)	NT
イカルチドリ(チドリ科)	-
オオジシギ(シギ科)	NT
コアジサシ(カモ科)	VU
ケイマフリ(ウミスズメ科)	VU
ヒメクロウミツバメ(ウミツバメ科)	VU
ミゾゴイ(サギ科)	VU
ハチクマ(タカ科)	NT
クマタカ(タカ科)	EN
オオワシ(タカ科)	VU
オジロワシ(タカ科)	VU
サンバ(タカ科)	VU
アオバズク(フクロウ科)	-
オオセッカ(センニュウ科)	EN
コジュリン(ホオジロ科)	VU
準絶滅危惧種(NT)	
シジュウカラガン(カモ科)	CR

亜種オオヒシクイ (カモ科)	NT
ハリオアマツバメ (アマツバメ科)	-
クイナ (クイナ科)	-
ケリ (チドリ科)	DD
シロチドリ (チドリ科)	VU
ホウロクシギ (シギ科)	VU
オオソリハシシギ (シギ科)	VU
オグロシギ (シギ科)	-
ハマシギ (シギ科)	NT
ツルシギ (シギ科)	VU
カンムリウミスズメ (ウミスズメ科)	VU
アホウドリ (アホウドリ科)	VU
サンカノゴイ (サギ科)	EN
ヨシゴイ (サギ科)	NT
ゴイサギ (サギ科)	-
コサギ (サギ科)	-
カラシラサギ (サギ科)	NT
ハイタカ (タカ科)	NT
オオタカ (タカ科)	NT
チュウヒ (タカ科)	EN
オオコノハズク (フクロウ科)	-
トラフズク (フクロウ科)	-
コミズク (フクロウ科)	-
アカショウビン (カワセミ科)	-
ヤマセミ (カワセミ科)	-
チゴハヤブサ (ハヤブサ科)	-
コヨシキリ (ヨシキリ科)	-
カワガラス (カワガラス科)	-
ノジコ (ホオジロ科)	NT
情報不足 (DD)	
シマクイナ (クイナ科)	EN
ヒメクイナ (クイナ科)	-
ツミ (タカ科)	-
コノハズク (フクロウ科)	-
絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	
シノリガモ (カモ科)	-
要注目種	
ハクガン (カモ科)	CR
コシジロウミツバメ (ウミツバメ科)	-

5 両生類・爬虫類	
和名(科名)	環境省2020
絶滅危惧IB類 (EN)	
アカウミガメ (ウミガメ科)	EN
絶滅危惧II類 (VU)	
トノサマガエル (アカガエル科)	NT
準絶滅危惧種 (NT)	
トウホクサンショウウオ (サンショウウオ科)	NT
キタオウシュウサンショウウオ (サンショウウオ科)	-
バンダイハコネサンショウウオ (サンショウウオ科)	NT
タゴガエル (アカガエル科)	-
ヤマアカガエル (アカガエル科)	-
ムカシツチガエル (アカガエル科)	-
トウキョウダルマガエル (アカガエル科)	NT
情報不足 (DD)	
ニホンイシガメ (イシガメ科)	NT
ニホンスッポン (スッポン科)	DD
ヒガシニホントカゲ (トカゲ科)	-
タカチホヘビ (タカチホヘビ科)	-
シロマダラ (ナミヘビ科)	-
絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	
クロサンショウウオ (サンショウウオ科)	NT
アカハライモリ (イモリ科)	NT

6 汽水・淡水魚類	
和名(科名)	環境省2020
絶滅危惧IA類 (CR)	
カワヤツメ (ヤツメウナギ科)	VU
アカヒレタビラ (コイ科)	EN
ゼニタナゴ (コイ科)	CR
シナイモツゴ (コイ科)	CR
ニホンイトヨ (トゲウオ科)	LP(本州)
カンキョウカジカ (カジカ科)	LP(東北・北陸地方)
絶滅危惧IB類 (EN)	
キンブナ (コイ科)	VU
タナゴ (コイ科)	EN
エゾウグイ (コイ科)	LP(東北地方)
ハナカジカ (カジカ科)	LP(東北地方)
チクゼンハゼ (ハゼ科)	VU

エドハゼ (ハゼ科)	VU
絶滅危惧II類 (VU)	
スナゴカマツカ (コイ科)	-
ワカサギ (通し回遊型) (キュウリウオ科)	-
クルマサヨリ (サヨリ科)	NT
ウツセミカジカ (カジカ科)	EN
マサゴハゼ (ハゼ科)	VU
ルリヨシノボリ (ハゼ科)	-
準絶滅危惧種 (NT)	
キタスナヤツメ (ヤツメウナギ科)	VU
ミナミスナヤツメ (ヤツメウナギ科)	VU
ニホンウナギ (ウナギ科)	EN
キタドジョウ (ドジョウ科)	DD
ホトケドジョウ (フクドジョウ科)	EN
ギバチ (ギギ科)	VU
シラウオ (シラウオ科)	-
サクラマス (通し回遊型) (サケ科)	NT
ミナメダカ (メダカ科)	VU
ヒモハゼ (ハゼ科)	NT
シロウオ (ハゼ科)	VU
アベハゼ (ハゼ科)	-
ジュズカケハゼ (ハゼ科)	NT
情報不足 (DD)	
クダリボウズギス (テンジクダイ科)	-
ボウズハゼ (ハゼ科)	-
ヘビハゼ (ハゼ科)	DD
要注目種	
テツギョ (コイ科)	-
テングヨウジ (ヨウジウオ科)	-
オオクチユゴイ (ユゴイ科)	-
クロホシマンジュウダイ (クロホシマンジュウダイ科)	-

7 昆虫類	
和名(科名)	環境省2020
絶滅 (EX)	
メガネサナエ (サナエトンボ科)	VU
オオキトンボ (トンボ科)	EN
ベッコウトンボ (トンボ科)	CR
クロシジミ (シジミチョウ科)	EN
ミヤマシジミ (シジミチョウ科)	EN
オオウラギンヒョウモン (タテハチョウ科)	CR
絶滅危惧I類 (CR+EN)	
コバネアオイトトンボ (アオイトトンボ科)	EN
グンパイトンボ (モノサシトンボ科)	NT
オオモノサシトンボ (モノサシトンボ科)	EN
カラカネイトトンボ (イトトンボ科)	NT
オオセズイトトンボ (イトトンボ科)	EN
ヒヌマイトトンボ (イトトンボ科)	EN
ルリイトトンボ (イトトンボ科)	-
ナゴヤサナエ (サナエトンボ科)	VU
ハネビロエゾトンボ (エゾトンボ科)	VU
ハマスズ (ヒバリモドキ科)	-
カワラバッタ (バッタ科)	-
スナヨコバイ (ヨコバイ科)	NT
タガメ (コオイムシ科)	VU
オオウスバカゲロウ (ウスバカゲロウ科)	-
ツノトンボ (ツノトンボ科)	-
カワラハンミョウ (ハンミョウ科)	EN
マークオサムシ (オサムシ科)	VU
オオキバナガミズギワゴミムシ (オサムシ科)	VU
ヨツボシカミキリ (カミキリムシ科)	EN
クロガネネクイハムシ (ハムシ科)	-
キスジクモバチ (クモバチ科)	-
ニッポンハナダカバチ (ギングチバチ科)	VU
コウノスジガバチモドキ (ギングチバチ科)	-
キスジツチスガリ (ギングチバチ科)	-
ホソメンハナバチ (ムカシハナバチ科)	-
ノウメンハナバチ (ムカシハナバチ科)	-
アオスジハナバチ (コハナバチ科)	-
トモンハナバチ (ハキリバチ科)	-
チャマダラセセリ (セセリチョウ科)	EN
ヒメシロチョウ (シロチョウ科)	EN
ウラジロミドリシジミ (シジミチョウ科)	-
ギンボシヒョウモン本州亜種 (タテハチョウ科)	-
絶滅危惧II類 (VU)	
ヒロバカレハ (カレハガ科)	VU
ギンボシスズメ (スズメガ科)	-
ヒメスズメ (スズメガ科)	NT
ウスジロドクガ (ドクガ科)	NT
ギンモンセダカモクメ (ヤガ科)	NT
オガサワラヒゲトウ (ヤガ科)	EN
絶滅危惧I類 (VU)	
カトリヤンマ (ヤンマ科)	-

ヒメサナエ (サナエトンボ科)	-	準絶滅危惧種 (NT)	
ヒメアカネ (トンボ科)	-	ネアカヨシヤンマ (ヤンマ科)	NT
ハッチョウトンボ (トンボ科)	-	マダラヤンマ (ヤンマ科)	NT
オオゴキブリ (オオゴキブリ科)	-	エゾトンボ (エゾトンボ科)	-
ヤマトマダラバツタ (バツタ科)	-	キイロヤマトンボ (ヤマトンボ科)	NT
コバンムシ (コバンムシ科)	EN	キトンボ (トンボ科)	-
キバネツノトンボ (ツノトンボ科)	-	カスミササキリ (キリギリス科)	-
エゾゲンゴロウモドキ (ゲンゴロウ科)	VU	コオイムシ (コオイムシ科)	NT
オオイチモンジシマゲンゴロウ (ゲンゴロウ科)	EN	ホッケミズムシ (ミズムシ科)	NT
シマケシゲンゴロウ (ゲンゴロウ科)	-	キイロマツモムシ (マツモムシ科)	-
ハマベミズギワゴミムシ (オサムシ科)	-	クロマダラナガカメムシ (クロマダラナガカメムシ科)	-
キバナガミズギワゴミムシ (オサムシ科)	-	シロヘリツチカメムシ (ツチカメムシ科)	NT
ツヤキベリアオゴミムシ (オサムシ科)	VU	ヒウラカメムシ (カメムシ科)	-
アオホソゴミムシ (オサムシ科)	-	ゲンゴロウ (ゲンゴロウ科)	VU
カツオマルドロムシ (マルドロムシ科)	-	メススジゲンゴロウ (ゲンゴロウ科)	-
ダイコクコガネ (コガネムシ科)	VU	ルイスツブゲンゴロウ (ゲンゴロウ科)	VU
クロヒラタシデムシ (ハネカクシ科)	-	ホソハンミョウ (ハンミョウ科)	VU
ホネゴミムシダマシ (ゴミムシダマシ科)	-	ナミハンミョウ (ハンミョウ科)	-
コホネゴミムシダマシ (ゴミムシダマシ科)	-	ヒメクロオサムシ (オサムシ科)	-
シラフヒョウタンゾウムシ (ゾウムシ科)	-	アカガネオサムシ (オサムシ科)	VU
クロツヤハマベゾウムシ (ゾウムシ科)	-	セアカオサムシ (オサムシ科)	NT
ヤマトキモンハナカミキリ (カミキリムシ科)	-	オオハンミョウモドキ (オサムシ科)	-
フタスジカタビロハナカミキリ (カミキリムシ科)	-	ヒョウタンゴミムシ (オサムシ科)	-
サドチビアメイロカミキリ (カミキリムシ科)	-	アオバネホソクビゴミムシ (ゴミムシ科)	-
ヒメビロウドカミキリ (カミキリムシ科)	NT	チビアオゴミムシ (オサムシ科)	EN
シラハタミズクサハムシ (ハムシ科)	-	エチゴトツクリゴミムシ (オサムシ科)	NT
クロスジカメノコハムシ (ハムシ科)	-	クロサワツブミズムシ (ツブミズムシ科)	-
タグチホソヒラタハムシ (ハムシ科)	-	ヤマトタマムシ (タマムシ科)	-
オオセイボウ (セイボウ科)	DD	ケスジドロムシ (ヒメドロムシ科)	VU
ニトベギングチ (ギングチバチ科)	DD	スナサビキコリ (コメツキムシ科)	-
ミヤギノヨコバイバチ (ギングチバチ科)	-	ハヤチネベニコメツキ (コメツキムシ科)	-
マイマイツツハナバチ (ハキリバチ科)	DD	ミヤマヒサゴコメツキ (コメツキムシ科)	-
キヌゲハキリバチ (ハキリバチ科)	-	スジグロポタル (ポタル科)	-
クズハキリバチ (ハキリバチ科)	DD	ヒメポタル (ポタル科)	-
ホシチャバナセセリ (セセリチョウ科)	EN	ゲンジポタル (ポタル科)	-
ヘリグロチャバナセセリ (セセリチョウ科)	-	コブナシコブスジコガネ (コブスジコガネ科)	-
ハヤシミドリシジミ (シジミチョウ科)	-	アイヌコブスジコガネ (コブスジコガネ科)	-
クロミドリシジミ (シジミチョウ科)	-	オオクワガタ (クワガタムシ科)	VU
キマダラモドキ (タテハチョウ科)	NT	ヤマトケシマグソコガネ (コガネムシ科)	-
		アカマダラハナムグリ (コガネムシ科)	DD

アカマダラセンチコガネ (アカマダラセンチコガネ科)	-	情報不足 (DD)	
ムラサキオオツチハンミョウ (ツチハンミョウ科)	-	ニンボーイナゴ (バツタ科)	-
ミスジナガクチキ (ナガクチキムシ科)	-	カスリウスバカゲロウ (ウスバカゲロウ科)	-
ルリナガクチキ (ナガクチキムシ科)	-	マダラコガシラミズムシ (コガシラミズムシ科)	VU
ムネアカナガクチキ (ナガクチキムシ科)	-	エゾヒメゲンゴロウ (ゲンゴロウ科)	-
アイヌテントウ (テントウムシ科)	-	マルコガタノゲンゴロウ (ゲンゴロウ科)	CR
ハマベゾウムシ (ゾウムシ科)	-	マダラケシミズギワゴミムシ (オサムシ科)	-
トビイロヒョウタンゾウムシ (ゾウムシ科)	-	ギョウトクコミズギワゴミムシ (オサムシ科)	VU
シラクモゴボウゾウムシ (ゾウムシ科)	-	アリスアトキリゴミムシ (オサムシ科)	DD
ジャコウホソハナカミキリ (カミキリムシ科)	-	アブクマナガゴミムシ (オサムシ科)	-
アメイロカミキリ (カミキリムシ科)	-	シラハタキバナガゴミムシ (オサムシ科)	-
トラフホソバネカミキリ (カミキリムシ科)	-	アオナガタマムシ (タマムシ科)	-
コウホネネクイハムシ (ハムシ科)	-	スギウラナガタマムシ (タマムシ科)	-
アカガネネクイハムシ (ハムシ科)	NT	タテスジヒメヒゲナガハナノミ (ヒメヒゲナガハナノミ科)	-
キンイロネクイハムシ (ハムシ科)	NT	シラホシダエンマルトゲムシ (ダエンマルトゲムシ科)	-
ベニカメノコハムシ (ハムシ科)	-	アヤスジミゾドロムシ (ヒメドロムシ科)	EN
オオルリハムシ (ハムシ科)	NT	チビヒサゴコメツキ (コメツキムシ科)	-
ホソシロフクモバチ (クモバチ科)	-	ミヤマコガネヒラタコメツキ (コメツキムシ科)	-
ハイイロクモバチ (クモバチ科)	-	ツヤカタモンチビコメツキ (コメツキムシ科)	-
アカゴシクモバチ (クモバチ科)	-	カワイヒラアシコメツキ (コメツキムシ科)	-
オオモンツチバチ (ツチバチ科)	-	オオマドポタル (ポタル科)	-
ヤマトスナハキバチ (ギングチバチ科)	DD	エンマハバビロガムシ (ガムシ科)	-
アシジロヨコバイバチ (ギングチバチ科)	-	ネプトクワガタ (クワガタムシ科)	-
エチゼンヒメハナバチ (ヒメハナバチ科)	-	コルリクワガタ (クワガタムシ科)	-
ヒメギフチョウ本州亜種 (アゲハチョウ科)	NT	クチキマグソコガネ (コガネムシ科)	-
ムモンアカシジミ (シジミチョウ科)	-	ナガスネエンマコガネ (コガネムシ科)	-
ミヤマカラスシジミ (シジミチョウ科)	-	シナノエンマコガネ (コガネムシ科)	-
ツマジロウラジャノメ本州亜種 (タテハチョウ科)	-	アラメエンマコガネ (コガネムシ科)	NT
フタスジギンエダシャク (シャクガ科)	-	ツガルホソシデムシ (オサシデムシ科)	-
フタマタシロナミシャク (シャクガ科)	-	Catops houyai (タマキノコムシ科)	-
クワヤマエグリシャチホコ (シャチホコガ科)	NT	アミメナガシンクイ (ナガシンクイ科)	-
フタホシドクガ (ドクガ科)	-	オオメツツシンクイ (ツツシンクイ科)	-
キバラヒトリ (ヒトリガ科)	-	ミヤマツチハンミョウ (ツチハンミョウ科)	-
トガリアツバ (ヤガ科)	-	ムネモンコナガクチキ (キノコムシダマシ科)	-
コシロシタバ (ヤガ科)	NT	ヒメカツオガタナガクチキ (キノコムシダマシ科)	-
ヒマラヤハガタヨトウ (ヤガ科)	-		

クロズハマベゴミムシダマシ (ゴミムシダマシ科)	-	サンリクドロソコエビ(ユンボソコエビ科)	DD*
ヒガシツヤヒサゴゴミムシダマシ (ゴミムシダマシ科)	-	ハマガニ(モクズガニ科)	NT*
クロスジチャイロテントウ (テントウムシ科)	-	絶滅危惧II類(VU)	
クロホシチビオオキノコ (オオキノコムシ科)	-	ツボミ(コガモガイ科)	NT
オオメナガヒゲナガゾウムシ (ヒゲナガゾウムシ科)	-	ヒナユキズメ(ユキズメ科)	NT
エゴヒゲナガゾウムシ (ヒゲナガゾウムシ科)	-	ヤマトクビキレガイ(クビキレガイ科)	-
ヒゲトハナカミキリ(カミキリムシ科)	-	ヨシダカワザンショウ(カワザンショウ科)	NT
クロマダラカメノコハムシ(ハムシ科)	-	ヒナタムシヤドリカワザンショウ (カワザンショウ科)	NT
クチビロハムシドロボチ(スズメバチ科)	-	ツバカワザンショウ(カワザンショウ科)	NT
クロケラトリバチ(ギンギョウバチ科)	-	マツシマカワザンショウ (カワザンショウ科)	VU
キアシマエダテバチ(ギンギョウバチ科)	-	シラギク(イソコハクガイ科)	NT
オオゴマシジミ(シジミチョウ科)	NT	エドガワミズゴマツボ (ミズゴマツボ科)	NT
ウラジャノメ本州亜種(タテハチョウ科)	-	ムシロガイ(オリイレヨフバイ科)	NT
フトスジエダシヤク(シヤクガ科)	-	カミスジカイコガイダマシ (ブドウガイ科)	VU
ナカシロオビエダシヤク(シヤクガ科)	-	シゲヤサイトカケギリ(トウガタガイ科)	NT
ミヤケカレハ(カレハガ科)	-	ウスコミミガイ(オカミミガイ科)	NT
マツクロスズメ本州亜種(スズメガ科)	-	スジホシムシモドキヤドリガイ (チリハギ科)	NT
イブキスズメ(スズメガ科)	-	ハマグリ(マルスダレガイ科)	VU
タカオキリガ(ヤガ科)	-	ツバサゴカイ(ツバサゴカイ科)	EN*
クロヤガ(ヤガ科)	-	スジホシムシ(スジホシムシ科)	NT*
シロオビハイイロヤガ(ヤガ科)	-	スジホシムシモドキ (スジホシムシモドキ科)	NT*
ヤマトウスチャヤガ(ヤガ科)	-	ウミカニムシ(コケカニムシ科)	-
キミミヤガ(ヤガ科)	-	ヒメアカイソガニ(モクズガニ科)	LP* (小笠原)
イタクラキノメイガ(ツトガ科)	-	トリウミアカイソモドキ(モクズガニ科)	NT*

8 海岸地域の無脊椎動物類

和名(科名)	環境省2020
絶滅危惧I類(CR+EN)	
イボキサゴ(ニシキウズ科)	NT
イボウミナ(ウミナ科)	VU
フトヘナタリ(キバウミナ科)	NT
カワアイ(キバウミナ科)	VU
カワグチツボ(ワカウラツボ科)	NT
サザナミツボ(ワカウラツボ科)	NT
クビキレガイモドキ(イツマデガイ科)	NT
ウネムシロ(オリイレヨフバイ科)	CR+EN
ナギサノシタタリ(オカミミガイ科)	-
スナガニ(スナガニ科)	-
オサガニ(オサガニ科)	NT*
ムツハアリアケガニ (ムツハアリアケガニ科)	NT*
準絶滅危惧種(NT)	
ホウザワイソギンチャク(-)	-
オロチヒモムシ(リネウス科)	-
ウミナ(ウミナ科)	NT
クロタマキビ(タマキビ科)	-
クリイロカワザンショウ (カワザンショウ科)	NT

オオウスイロヘソカドガイ (カワザンショウ科)	-	マゴコロガイ(チリハギ科)	NT
コメツブガイ(クダタマガイ科)	-	サクラガイ(ニッコウガイ科)	NT
マツシマコメツブ(クダタマガイ科)	-	ネムグリガイ(フナクイムシ科)	-
ヤミヨキセワタ(カノコキセワタガイ科)	VU	カンテンフサゴカイ(フサゴカイ科)	-
ヨコイトカケギリ(トウガタガイ科)	-	ニホンウミイサゴムシ(ウミイサゴムシ科)	-
ガタヅキ(チリハギ科)	DD	モリノカマカ(カマカヨコエビ科)	-
マテガイ(マテガイ科)	-	ヒヌマヨコエビ(キタヨコエビ科)	-
ユウシオガイ(ニッコウガイ科)	NT	ベンケイガニ(ベンケイガニ科)	NT*
サビシラトリ(ニッコウガイ科)	NT	チビイトマキヒトデ(イトマキヒトデ科)	-
オオノガイ(オオノガイ科)	NT	ウチワイカリナマコ(イカリナマコ科)	-
ニオガイ(ニオガイ科)	-	シロナマコ(カウディナ科)	-
オニアサリ(マルスダレガイ科)	-		
オイワケゴカイ(ゴカイ科)	-	〈注〉環境省2020で*印のあるものは、環境省海洋生物 レッドリスト2017におけるカテゴリー	
ジャムシ(ゴカイ科)	-	9 淡水産貝類	
イトメ(ゴカイ科)	NT*	和名(科名)	環境省2020
ノトマスタス属の一種(イトゴカイ科)	-	絶滅危惧I類(CR+EN)	
ユムシ(ユムシ科)	NT*	メンカラスガイ(イシガイ科)	VU
ハマダンゴムシ(ハマダンゴムシ科)	-	カワシンジュガイ(カワシンジュガイ科)	EN
バルスアナジャコ(アナジャコ科)	-	マメタニシ(エゾマメタニシ科)	CR
ヨモギホンヤドカリ(ホンヤドカリ科)	NT*	絶滅危惧II類(VU)	
マメコブシガニ(コブシガニ科)	-	ヒガシタブネドブガイ(イシガイ科)	-
カネコブシガニ(コブシガニ科)	DD	マツカサガイ北東本州固有種(イシガイ科)	NT
スネナガイソガニ(モクズガニ科)	-	ミズゴマツボ(ミズゴマツボ科)	VU
アカイソガニ(モクズガニ科)	-	準絶滅危惧種(NT)	
アカテガニ(ベンケイガニ科)	-	ヌマガイ(イシガイ科)	-
カクベンケイガニ(ベンケイガニ科)	-	チリメンカワニナ(カワニナ科)	-
アリアケモドキ(ムツハアリアケガニ科)	-	情報不足(DD)	
ヒモイカリナマコ(イカリナマコ科)	-	マシジミ(シジミ科)	VU
情報不足(DD)		ヒメヒラマキミズマイイ(ヒラマキガイ科)	EN
アマガイ(アマオブネ科)	-	ミズコハクガイ(ヒラマキガイ科)	VU
イシマキ(アマオブネ科)	-		
マツカワウラカワザンショウ (カワザンショウ科)	VU		
マンゴクウラカワザンショウ (カワザンショウ科)	VU		
マルテンスマツムシ(タモトガイ科)	CR+EN		
アカニシ(アッキガイ科)	-		
イリエゴウナ(ガクバンゴウナ科)	VU		
キタノカラマツガイ(コウダカカラマツ科)	NT		
ヒガタヨコイトカケギリ(トウガタガイ科)	DD		
ヌカルミクチキレ(トウガタガイ科)	NT		
シコロエガイ(シコロエガイ科)	-		

IV 索引(和名)

分類: (1) 植物、(2) 哺乳類、(3) 鳥類、(4) 両生類・爬虫類(両生爬虫)、(5) 汽水・淡水魚類(魚類)、(6) 昆虫類、(7) 海岸地域の無脊椎動物類(海岸動物)、(8) 淡水産貝類(淡水貝類)

和名	頁	分類	和名	頁	分類
ア					
アオスジハナバチ	70	昆虫類	カトリヤンマ	54	昆虫類
アオバズク	42	鳥類	カヤラン	20	植物
アカウミガメ	45	両生爬虫	カラカネイトトンボ	53	昆虫類
アカゴシクモバチ	68	昆虫類	カリガネ	37	鳥類
アカテガニ	84	海岸動物	カワアイ	79	海岸動物
アカヒレタビラ	47	魚類	カワシンジュガイ	85	淡水貝類
アカマダラハナムグリ	64	昆虫類	カワラバツタ	58	昆虫類
アキタスズムシソウ	19	植物	カワラハンミョウ	61	昆虫類
亜種ヒシクイ	36	鳥類	キスジツチスガリ	70	昆虫類
アズマギク	32	植物	キヌゲハキリバチ	71	昆虫類
イカルチドリ	38	鳥類	キバネツノトンボ	59	昆虫類
イチヨウウキゴケ	10	植物	ギョウトクコムズギワゴミムシ	62	昆虫類
イチリンソウ	22	植物	キヨスミイトゴケ	61	植物
イヌワシ	41	鳥類	キンイロネクイハムシ	17	昆虫類
イボウミニナ	78	海岸動物	キンブナ	46	魚類
イワヒバリ	43	鳥類	クズハキリバチ	72	昆虫類
ウサギシダ	13	植物	クビキレガイモドキ	80	海岸動物
ウスグヤナギラン	27	植物	クマガイソウ	18	植物
ウスジロドクガ	76	昆虫類	クマタカ	40	鳥類
ウズラ	37	鳥類	クロガネネクイハムシ	66	昆虫類
ウツセミカジカ	49	魚類	クロカワゴケ	11	植物
ウトウ	39	鳥類	クロヤツシロラン	19	植物
ウミミドリ	27	植物	ゲンバイトンボ	52	昆虫類
ウラジロミドリシジミ	75	昆虫類	ゲンゴロウ	60	昆虫類
エゾウグイ	48	魚類	コアジサシ	39	鳥類
エドハゼ	51	魚類	コクガン	36	鳥類
エビネ	18	植物	コククヅラ	35	哺乳類
オオイチモンジシマゲンゴロウ	60	昆虫類	コシアカツバメ	43	鳥類
オオウスバカゲロウ	59	昆虫類	コシロシタバ	77	昆虫類
オオキトンボ	56	昆虫類	コバネアオイトトンボ	52	昆虫類
オオクワガタ	63	昆虫類	サ		
オオゴキブリ	57	昆虫類	サクラソウ	28	植物
オオセイボウ	68	昆虫類	サシバ	42	鳥類
オオセスジイトトンボ	53	昆虫類	ザゼンソウ	14	植物
オオミズゴケ	10	植物	サンショウモ	12	植物
オオルリハムシ	67	昆虫類	サンリクドロソコエビ	83	海岸動物
オオワシ	41	鳥類	シナイモツゴ	49	魚類
オニバス	13	植物	シライヤナギ	26	植物
			シラネアオイ	23	植物
			スジホシムシ	82	海岸動物
			スジホシムシモドキヤドリガイ	80	海岸動物
			スナガニ	84	海岸動物
カ					
カザグルマ	22	植物			

和名	頁	分類
スナメリ	35	哺乳類
ゼニタナゴ	48	魚類
センダイハギ	25	植物
ソヨゴ	30	植物

タ

ダイコクコガネ	63	昆虫類
タカオキリガ	77	昆虫類
タガメ	58	昆虫類
タチアママ	16	植物
タナゴ	47	魚類
チャマダラセセリ	72	昆虫類
ツバサゴカイ	82	海岸動物
テツギョ	46	魚類
デンジソウ	12	植物
トウホクサンショウウオ	44	両生爬虫
トガクシソウ	21	植物
トチカガミ	15	植物
トノサマガエル	44	両生爬虫
トモンハナバチ	71	昆虫類

ナ

ナギサノシタタリ	81	海岸動物
ナミハンミョウ	61	昆虫類
ナンバンギセル	29	植物
ニッポンハナダカバチ	69	昆虫類
ニホンザル	33	哺乳類
ニンボーイナゴ	57	昆虫類
ノレンコウモリ	33	哺乳類

ハ

ハッチョウトンボ	56	昆虫類
ハナカジカ	50	魚類
ハマガニ	83	海岸動物
ハマグリ	81	海岸動物
ハマゴウ	29	植物
ハマベゾウムシ	65	昆虫類
ヒガシニホントカゲ	45	両生爬虫
ヒキノカサ	24	植物
ヒヌマイトトンボ	54	昆虫類
ヒメギフチョウ本州亜種	73	昆虫類
ヒメキンボウゲ	23	植物
ヒメサユリ	17	植物
ヒメシロアサザ	31	植物
ヒメシロチョウ	74	昆虫類
ヒメバイカモ	24	植物

和名	頁	分類
ヒメビロウドカミキリ	66	昆虫類
フクジュソウ	21	植物
フサザクラ	20	植物
フタスジカタビロハナカミキリ	65	昆虫類
フタスジギンエダシヤク	76	昆虫類
フタバアオイ	14	植物
フトヘナタリ	78	海岸動物
ホシチャバネセセリ	73	昆虫類
ホネゴミムシダマシ	64	昆虫類
ホンゴウソウ	17	植物

マ

マサゴハゼ	50	魚類
マダラヤンマ	55	昆虫類
マツカサガイ北東本州固有種	86	淡水貝類
マツムシソウ	32	植物
マメタニシ	86	淡水貝類
マークオサムシ	62	昆虫類
ミズオオバコ	15	植物
ミゾゴイ	40	鳥類
ミミカキグサ	30	植物
ミヤマシジミ	75	昆虫類
ムカゴネコノメソウ	25	植物
ムモンアカシジミ	74	昆虫類
ムラサキセンブリ	31	植物
メガネサナエ	55	昆虫類
メンカラスガイ	85	淡水貝類
モリアブラコウモリ	34	哺乳類

ヤ

ヤマトスナハキバチ	69	昆虫類
ヨコグラノキ	26	植物
ヨシダカワザンショウ	79	海岸動物
ヨタカ	38	鳥類

ラ

ラッコ	34	哺乳類
リュウノヒゲモ	16	植物
ルリソウ	28	植物
ルリヨシノボリ	51	魚類

RED DATA BOOK MIYAGI 2026 POPULAR EDITION

Published in March 2026

Edited and Published by
Nature Conservation Division,
Miyagi Prefectural Government

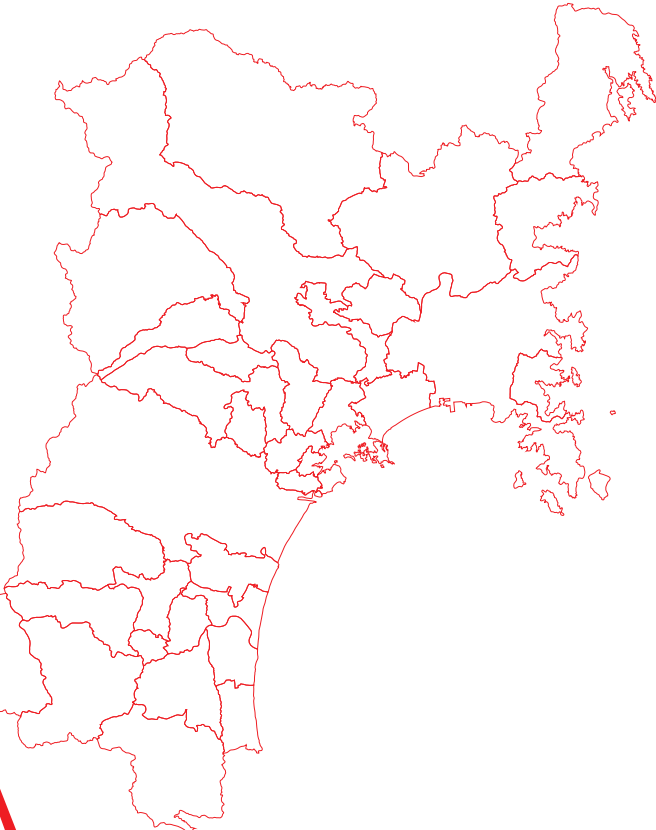
3-8-1 Honcho, Aoba-ku, Sendai,
Miyagi 980-8570, Japan

宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 2026 (宮城県レッドデータブック 2026)

普及版

2026年3月発行

編集・発行 宮城県環境生活部自然保護課
仙台市青葉区本町三丁目8番1号
電話 022(211)2673



**RED
DATA
BOOK
MIYAGI 2026**